

富山県上市町

町内遺跡試掘調査報告書

—県営農地整備事業（相ノ木中部北・南地区）に伴う調査—

久金新遺跡

上荒又南遺跡

上荒又北遺跡

相ノ木北遺跡

下荒又遺跡

放士ヶ瀬新遺跡

2021年3月

上市町教育委員会

富山県上市町

町内遺跡試掘調査報告書

—県営農地整備事業（相ノ木中部北・南地区）に伴う調査—

久金新遺跡

上荒又南遺跡

上荒又北遺跡

相ノ木北遺跡

下荒又遺跡

放士ヶ瀬新遺跡

2021年3月

上市町教育委員会

序

上市町は、北アルプス立山連峰の靈峰・剣岳の懷に抱かれた自然豊かな地であります。当町では、北陸地方で最初に発見された旧石器時代の遺跡として名高い眼目新丸山遺跡を嚆矢として、縄文時代には極楽寺遺跡・永代遺跡、弥生時代には江上弥生遺跡群、古墳時代には柿沢古墳群・斉神新古墳群、古代・中世には国史跡上市黒川遺跡群や町史跡弓庄城跡というように、各時代を通じて富山県を代表するような遺跡を残しながら連綿と人々の営みが続けられてきました。

町内相ノ木地区では、ほ場の大区画化により生産性をさらに高める区画整理の要望が上がり、平成27年度から県営農地整備事業として計画されました。これを受け、上市町教育委員会では、事業計画地内における埋蔵文化財の保護と調整を図るべく、平成28年度から令和2年度までの5箇年で久金新遺跡・上荒又南遺跡・上荒又北遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡・放土ヶ瀬新遺跡の6遺跡について試掘調査を実施してきました。

調査では、これまで開発行為に伴う埋蔵文化財調査事例が希薄であった相ノ木地区においても、縄文時代晚期から現代に至る先人たちの営みの痕跡が広がっていることがあらためて確認されました。

ここにその成果をまとめた報告書を刊行する運びとなりましたが、本書が各遺跡の価値を後世に伝える記録となることはもとより、地域の皆様がその土地の有する歴史的な背景について理解を深めることに役立てば幸いであります。

最後になりましたが、今回の調査にあたり多大なご理解とご協力を賜りました調査地元地区の皆様をはじめ、上条用水土地改良区、富山県農林水産部、富山農林振興センター、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センターなど関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月31日

上市町教育委員会

教育長 藤繩太郎

例　　言

1. 本書は、富山県中新川郡上市町相ノ木地区に所在する久金新遺跡・上荒又南遺跡・上荒又北遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡・放土ヶ瀬新遺跡の試掘調査報告書である。
2. 試掘調査は県営農地整備事業に伴うもので、富山県農林水産部の依頼を受けて上市町教育委員会が実施した。なお、調査費用については上市町が負担し、国庫補助金及び県補助金の交付を受けた。
3. 調査期間及び面積は以下のとおりである。

平成 28 年 10 月 11 日～12 月 14 日（実働 29 日）、調査対象面積 9.6ha、調査面積 1,481m²
平成 29 年 10 月 20 日～12 月 4 日（実働 20 日）、調査対象面積 7.0ha、調査面積 1,119m²
平成 30 年 9 月 6 日～11 月 26 日（実働 23 日）、調査対象面積 5.5ha、調査面積 1,032m²
令和 元 年 11 月 26 日～12 月 23 日（実働 13 日）、調査対象面積 4.6ha、調査面積 790m²
令和 2 年 10 月 14 日～11 月 9 日（実働 14 日）、調査対象面積 5.6ha、調査面積 911m²
4. 調査事務局及び調査担当者は以下のとおりである。

調査事務局	上市町教育委員会事務局	事務局長	廣田泰三（平成 28・令和元～2 年度）
			小池義弘（平成 29～30 年度）
同	主 幹	碓井秀樹（平成 30 年度）	
同	局長代理	澤井伸夫（平成 28～29 年度）	
		藤原弘朗（令和元～2 年度）	
同	係 長	三浦知徳（調査担当者）	
富山県埋蔵文化財センター	主 任	町田尚美（平成 29 年度）	
5. 本書の執筆・編集は三浦が行った。なお、遺物整理業務の一部は株式会社エイ・テックに委託して実施した。
6. 調査及び本書の作成にあたっては、下記の方々の指導、助言及び協力を得た。記して深く謝意を表したい。

土地所有者及び久金新・上荒又・下荒又・放土ヶ瀬新町内会各位
岡田一広（富山考古学会）、岡本淳一郎（富山県埋蔵文化財センター）、鹿島昌也（富山市教育委員会）、
久々忠義（富山県埋蔵文化財センター）、高梨清志（富山県教育委員会）、野末浩之（滑川市立博物館）、
廣瀬直樹（氷見市教育委員会）、町田尚美（富山県埋蔵文化財センター）、盛田拳生（滑川市立博物館）

※個人名は 50 音順、敬称略、所属は当時
7. 試掘調査及び整理作業の参加者は次のとおりである。

試掘調査：荒木智恵子、金子みづゑ、甚内みき子、高城富美子、中川 晃
整理作業：越野由香

目 次

第1章 遺跡の位置と環境	1
第2章 調査の経過	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 分布調査	3
第3節 試掘調査	6
1. 調査の方法	
2. 調査の経過	
第3章 調査結果	8
第1節 久金新遺跡	8
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第2節 上荒又南遺跡	12
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第3節 上荒又北遺跡	16
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第4節 相ノ木北遺跡	21
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第5節 下荒又遺跡	24
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第6節 放土ヶ瀬新遺跡	27
1. 調査の概要	
2. 土層の堆積状況	
3. 遺構・遺物	
4. 調査後措置	
第4章 総 括	32
写 真 図 版	35

挿図目次

第 1 図	調査対象地の位置	1
第 2 図	地形と周辺の道路	2
第 3 図	分布調査結果	4
第 4 図	分布調査集遺物実測図	5
第 5 図	調査対象地区全体図	7
第 6 図	久金新道路順序模式図	8
第 7 図	久金新道路試掘トレンド配置図	9
第 8 図	久金新道路出土遺物実測図	11
第 9 図	上荒又南道路順序模式図	12
第 10 図	上荒又南道路試掘トレンド配置図	13
第 11 図	上荒又南道路出土遺物実測図	15
第 12 図	上荒又北道路順序模式図	16
第 13 図	上荒又北道路試掘トレンド配置図	17
第 14 図	上荒又北道路出土遺物実測図(1)	19
第 15 図	上荒又北道路出土遺物実測図(2)	20
第 16 図	相ノ木北道路順序模式図	21
第 17 図	相ノ木北道路試掘トレンド配置図	22
第 18 図	相ノ木北道路出土遺物実測図	23
第 19 図	下荒又道路順序模式図	24
第 20 図	下荒又道路試掘トレンド配置図	25
第 21 図	下荒又道路出土遺物実測図	26
第 22 図	放土ヶ瀬新道路順序模式図	27
第 23 図	放土ヶ瀬新道路試掘トレンド配置図	28
第 24 図	放土ヶ瀬新道路出土遺物実測図	30
第 25 図	要保護指図範囲図	33

表目次

第 1 表	試掘調査一覧表	6
第 2 表	久金新道路試掘トレンド一覧表	10
第 3 表	上荒又南道路試掘トレンド一覧表(1)	14
第 4 表	上荒又南道路試掘トレンド一覧表(2)	15
第 5 表	上荒又北道路試掘トレンド一覧表	18
第 6 表	相ノ木北道路試掘トレンド一覧表	22
第 7 表	下荒又道路試掘トレンド一覧表	26
第 8 表	放土ヶ瀬新道路試掘トレンド一覧表(1)	29
第 9 表	放土ヶ瀬新道路試掘トレンド一覧表(2)	30
第 10 表	報告遺物一覧表	31

写真図版目次

図版 1	周辺航空写真	35
図版 2	調査写真(久金新道路)	36
図版 3	調査写真(久金新道路)	37
図版 4	調査写真(上荒又南道路)	38
図版 5	調査写真(上荒又北道路)	39
図版 6	調査写真(上荒又北道路)	40
図版 7	調査写真(上荒又北道路)	41
図版 8	調査写真(上荒又北道路)	42
図版 9	調査写真(相ノ木北道路)	43
図版 10	調査写真(下荒又道路)	44
図版 11	調査写真(放土ヶ瀬新道路)	45
図版 12	遺物写真(1)	46
図版 13	遺物写真(2)	47
図版 14	遺物写真(3)	48
図版 15	遺物写真(4)	49
図版 16	遺物写真(5)	50

第1章 遺跡の位置と環境

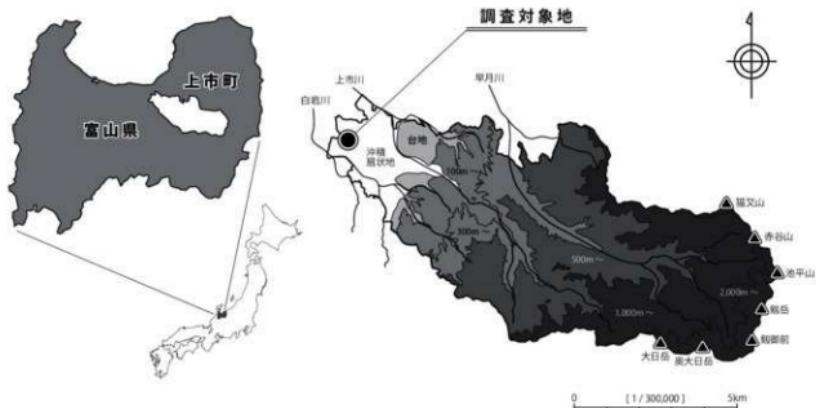
久金新遺跡・上荒又南遺跡・上荒又北遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡・放士ヶ瀬新遺跡は、富山県中新川郡上市町相ノ木地区に所在する（第1・2図、図版1）。遺跡群は上市町市街地の北西部、富山市及び舟橋村との境界に近い白岩川右岸冲積扇状地上に立地し、標高は7～13m前後を測る。白岩川は上市・立山町境の大辻山に源を発する2級河川で、明治時代の河川改修によって河口が分離されるまでは、西を流れる常願寺川に合流して水橋川となって日本海に注いでいた。水量の豊富な白岩川は古くから水運の要として重要な役割を果たしてきたとされ、それを物語るように流域には多数の遺跡が残されている。

今回の調査対象地を含む白岩川中・下流域の扇状地上において人々の生活の痕跡が見出されるようになるのは縄文時代中期以降であるが、安定した集落を形成するなど生活の拠点としての利用は低調であったようで、全体的にその痕跡は希薄である。本格的に低地部の開発が行われるようになったのは水稻耕作へのシフトが行われた弥生時代以降であり、周辺では江上A遺跡（10）をはじめとする江上弥生遺跡群（8～14）や放士ヶ瀬北遺跡（7）、清水堂遺跡群（19）、浦田遺跡（16）などが展開する。

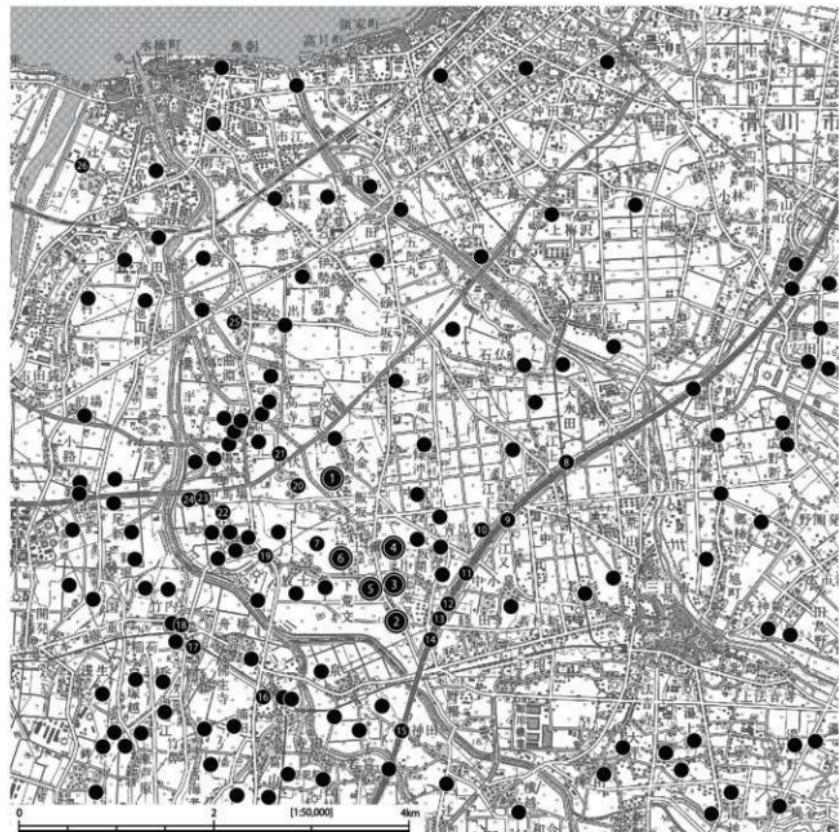
古墳時代には竹内天神堂古墳（18）・若王子塚古墳（23）・宮塚古墳（24）・清水堂古墳・稚兒塚古墳など多数の古墳が築かれ（白岩川流域古墳群）、地域勢力の強大化が窺われるようになるが、その母体となった集落等の様相は現状のところ調査事例に乏しく不透明である。

古代になるとこの地は越中国新川郡に属し、莊園（太郎莊）の開発ともあいまって大小さまざまな集落が形成されるようになった。また、河口付近に位置する水橋荒町・辻ヶ堂遺跡（26）では計画的に配置された建物や墨書き土器・瓦・石帶など官衙的様相の強い遺構・遺物が確認され、「延喜式」に見える「越中国八駅」のひとつ「水橋駅」に比定されており、この一帯が水上交通のみならず陸上交通の拠点としても重要であったことが窺われる。

中世には現在にまで続く集落が各地で営まれるようになり、その多くが現況宅地下で具体的な様相がつかめないものの、周辺では江上B遺跡（9）をはじめとする一般集落や神田遺跡（15）のような公的性格を帯びた集落のほか、双六盤の出土で注目された水橋金広・中馬場遺跡（22）、仏生寺城跡（17）、織田勢と上杉勢の攻防の舞台となった小出城跡（25）など、歴史的に重要な遺跡が多く確認されている。



第1図 調査対象地の位置



No. 遺跡名

主な時代

種別

備考

1 久宝新道跡	绳文～近世	集落	調査地
2 上之又南道跡	弥生～近世	集落	調査地
3 下荒又北道跡	绳文～近世	集落	調査地
4 相ノ木北道跡	绳文、弥生、中世	集落	調査地
5 下荒又道跡	弥生～近世	散布地	調査地
6 放土ヶ瀬御道跡	绳文～近世	集落	調査地
7 放土ヶ瀬瓦道跡	弥生(中)	集落	
8 東江上道跡	古代(飛鳥・奈良)、近世	集落	
9 江上B道跡	弥生(後)、中世(難倉)	集落	
10 江上A道跡	弥生(後)	集落	
11 飯坂道跡	弥生(後)	墓	
12 中小原道跡	弥生(中・後)、中世	集落	
13 下村山道跡	绳文(後)、弥生	集落	

No. 遺跡名

主な時代

種別

備考

14 正門新道跡	弥生(中・後)、近世	集落	
15 神道跡	中世(難倉)	集落	
16 諏訪山道跡	弥生(中・後)、古代(平安)	集落	立山町。舟橋村
17 亿生寺城跡	中世(鴨川)	城跡	舟橋村
18 竹内天神堂古墳	古墳(前)	古墳	舟橋村
19 清水堂南道跡	弥生(後)	集落・墓	富山市
20 田伏・佐野竹道跡	古代、中世	集落	富山市
21 水堀田伏道跡	绳文(奥)、古代	集落	富山市
22 水堀金合・中堀塔道跡	中世(室町)～近世	集落・城跡	富山市
23 五王子塚古墳	古墳(前)	古墳	富山市
24 宮代古墳	古墳(前)	古墳	富山市
25 小出城跡	中世(鴨川)	城跡	富山市
26 水堀町町、辻ヶ堂道跡	古代(奈良・平安)	集落	富山市

第2図 地形と周辺の遺跡 [縮尺 1/50,000]

第2章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年5月、富山県富山農林振興センターより上市町教育委員会に、町内北西部に位置する相ノ木地区において大規模な整備事業を計画している旨の連絡及び埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する照会があった。事業区域は相ノ木地区内を南東から北西に流れる石割川を境とした「相ノ木中部北地区」（飯坂新・久金新地内、約20ha）及び「相ノ木中部南地区」（上荒又・放土ヶ瀬新地内、約32ha）の2地区で、前者は平成28～33（令和3）年度、後者は平成30～35（令和5）年度の事業期間を予定しているとのことであった。

事業対象地域にかかる周知の埋蔵文化財包蔵地としては、H S - 0 7 遺跡・相ノ木北遺跡・放土ヶ瀬北遺跡・放土ヶ瀬新遺跡・下荒又遺跡の5遺跡が存在していたが、現状で遺跡空白地であっても過去の遺物採取事例等により未発見（未登録）の遺跡の存在が強く想定されたため、ほぼ全域を対象として埋蔵文化財の有無を確認し、その結果を元に工事との調整を図る必要があった。しかし、事業対象面積が広大かつ事業計画年度が短期間に集中（重複）していることから、上市町教育委員会では人員的制約により全域を対象とした試掘調査を期間内に終えることはきわめて困難であると判断し、協力体制のあり方等も含めた今後の対応について富山県農林水産部・富山農林振興センター・富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センターと協議を行った。なお、県内では同時期に複数の市町において同様な事態が発生しており、それらの市町を交えた説明会・協議も同年7月に行われている。

協議の結果、上市町域における試掘調査は上市町教育委員会が主体となって行うこと、必要があれば富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を行うこと、試掘調査対象範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地及びその周辺に限定することとなった。また、試掘調査対象範囲については、事業対象範囲全域を対象とした分布調査（地表面踏査）を同年度内に改めて実施し、埋蔵文化財包蔵地の見直しを行った上で決定することとした。

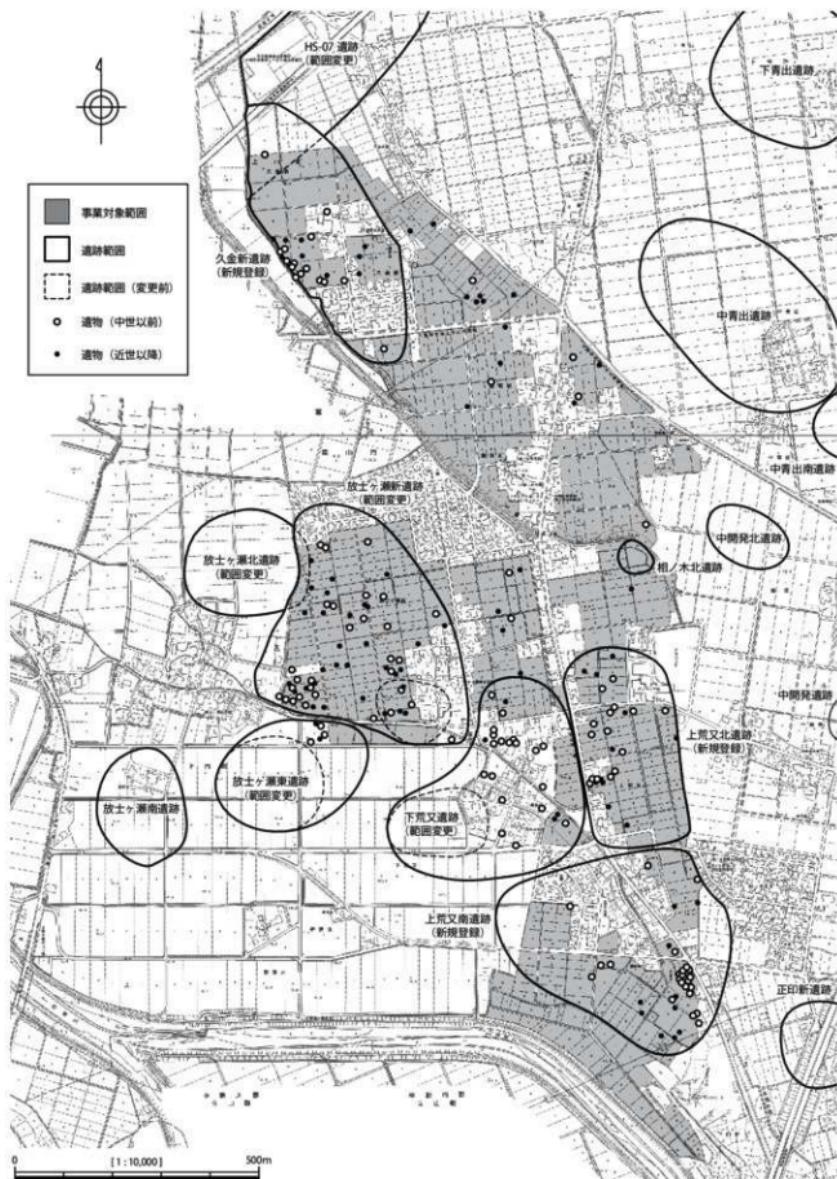
第2節 分布調査

分布調査は、平成27年11月26日～12月22日までの延べ9日間で実施した。ただし、調査作業員を勤員して集中的に踏査したのは12月15日～22日の3日間で、残りは他業務・作業の合間に1～数名で臨機的に行った。

調査は事業対象範囲内の水田・畑地等を1面ずつ地表面踏査し、遺物の採取地点を縮尺1/2,500の地形図にその都度記録する方式で行った。その結果、縄文時代1点・弥生～古墳時代25点・古代65点・中世23点・近世（以降）98点の計212点の遺物を採取した。数量的には近世（以降）に属する陶器類が半数近くを占めるが、中世以前の遺物も一定数あり、特に古代に属するものが多い。それらの一部を第4図に示したが、紙幅の都合もあり、種別等の詳細については第10表の報告遺物一覧表を参照されたい（以後、試掘調査出土遺物についても同様）。

こうして採取した遺物の分布状況を基礎に、既往の埋蔵文化財包蔵地範囲・過去の遺物採取事例・現況地形・基盤整備以前の地形・用水網等を勘案して、埋蔵文化財包蔵地範囲の見直しを行った。その結果、平成28年1月15日付けで久金新遺跡・上荒又北遺跡・上荒又南遺跡の3遺跡について新規登録、H S - 0 7 遺跡・放土ヶ瀬北遺跡・放土ヶ瀬新遺跡・放土ヶ瀬東遺跡・下荒又遺跡の5遺跡について範囲の変更を行った（第3図）。

このうち、相ノ木中部北地区では久金新遺跡、相ノ木中部南地区では放土ヶ瀬新遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡・上荒又北遺跡・上荒又南遺跡の計6遺跡が事業対象範囲と重複することとなった。これを受け、平成28年3月1日付けで富山県知事より富山県教育委員会宛てに文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知がなされ、平成28年度以降に順次試掘調査を実施していくこととなった。

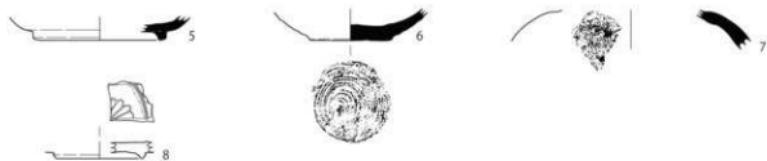


第3図 分布調査結果 (縮尺 1/10,000)

久金新遺跡



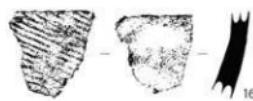
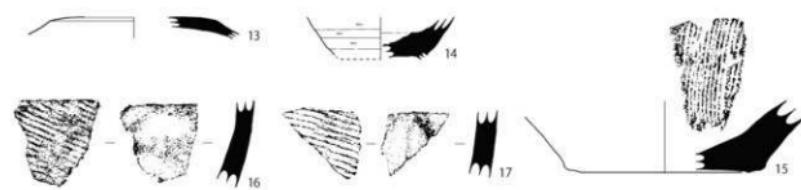
上荒又南遺跡



上荒又北遺跡



下荒又遺跡



放土ヶ瀬新遺跡



第4図 分布調査採集遺物実測図 [縮尺 1/3]

第3節 試掘調査

1. 調査の方法

試掘調査は、原則的に事業対象範囲のうち遺跡範囲と重複する部分、また現況の耕地区画が直接重複しなくとも大区画化工事後に遺跡範囲にかかる部分を対象として実施した（第5図）。なお、調査の進捗によって遺構・遺物の存在する可能性がきわめて低いと判断できた部分や、水はけが極端に悪く重機の進入・移動が困難な部分については、周辺状況等も含めて検討のうえ、現地の判断で除外している。

調査は、対象となる水田・畑地の長軸に平行あるいは直交する方向で幅1m・長さ20mを基本とする試掘トレチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）による掘削後人力により平面・断面の精査を行い、遺構・遺物の有無や遺存状況を確認する方式で実施した。また、調査記録は試掘トレチの配置図（縮尺1/1,000）、平面図・土層断面図（縮尺1/20～100）をそれぞれ現地で作成し、デジタル一眼レフカメラで調査風景・完掘状況・土層堆積状況・遺構検出状況・遺物出土状況等の写真撮影を行った。

なお、試掘トレチ掘削の順番は基本的に重機の移動が極力少なくなるような動線を選択しており、掘削順で振った試掘トレチ番号の配置状況に特定の意図や方向性はない。

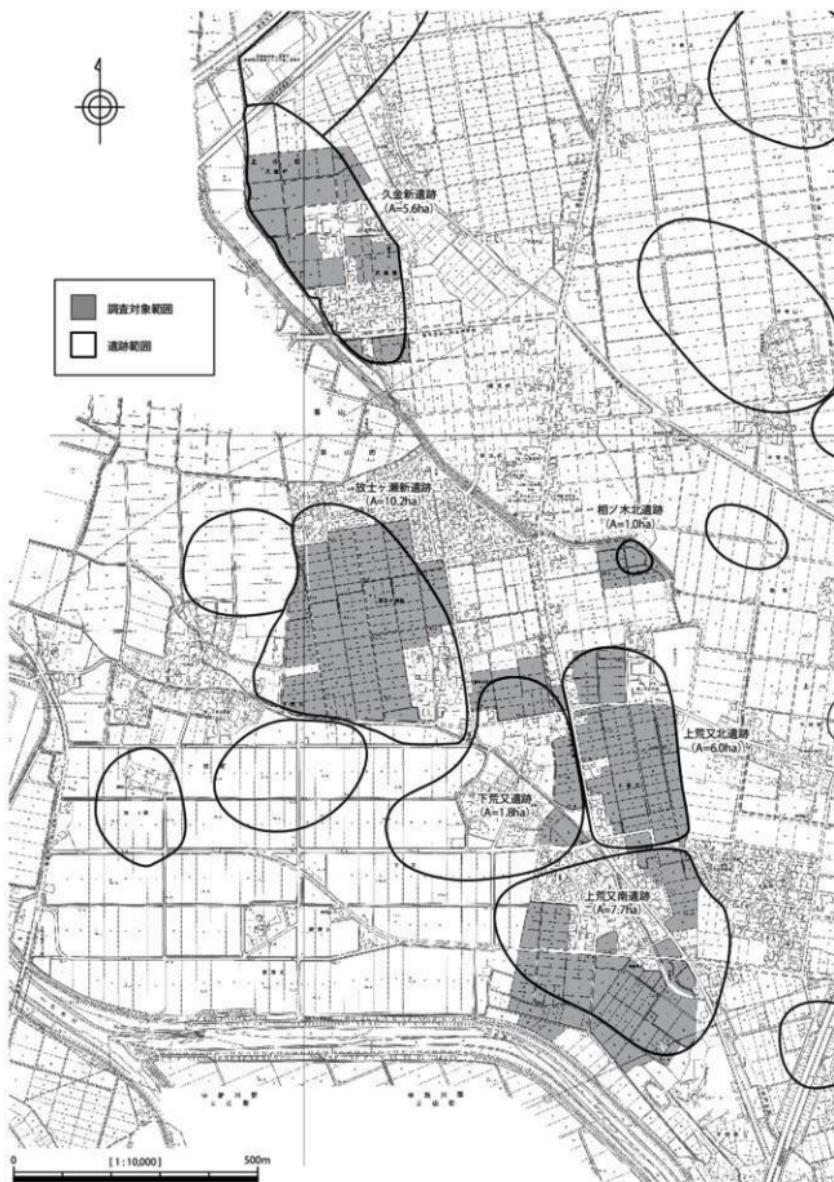
2. 調査の経過

試掘調査は、平成28～令和2年度の5箇年で実施した（第1表）。富山農林振興センター及び上条用水土地改良区で調整した工事の年次計画を元に、可能な限り試掘調査結果が各工区の詳細設計に反映されるよう考慮し、平成28年度は上荒又北遺跡・久金新遺跡の2遺跡、平成29年度は上荒又南遺跡・上荒又北遺跡の2遺跡、平成30年度は上荒又南遺跡・上荒又北遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡の4遺跡、令和元・2年度は放士ヶ瀬新遺跡をそれぞれ対象とすることとした。また、調査対象地区の大部分を占める水田は稲刈り完了後の10月以降、部分的に存在する麦作地については10月の播種までの間に試掘調査を実施した。

なお、試掘調査は原則的に上市町教育委員会単独で対応したが、平成29年度調査の一部期間については富山県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受けた。

第1表 試掘調査一覧表

調査年度	遺跡名	調査期間	実働日数	対象面積	調査面積	保護措置	調査担当者
平成28年度 (2016)	上荒又南遺跡	10月11日～11月14日	13日	4.0ha	633m ²		上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
	久金新遺跡	11月18日～12月14日	16日	5.6ha	848m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
	年度計		29日	9.6ha	1,481m ²		
平成29年度 (2017)	上荒又南遺跡	10月20日～11月10日	8日	2.6ha	457m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳 富山県埋蔵文化財センター 主任 町田尚美
	上荒又北遺跡	11月10日～12月4日	12日	4.4ha	662m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳 富山県埋蔵文化財センター 主任 町田尚美
	年度計		20日	7.0ha	1,119m ²		
平成30年度 (2018)	上荒又南遺跡	9月6日～11日	2日	1.1ha	95m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
	上荒又北遺跡	9月12日～13日	7日	1.6ha	282m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
	相ノ木北遺跡	9月27日～10月12日					
	下荒又遺跡	9月18日～26日	4日	1.0ha	155m ²	○	上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
	年度計		10日	1.8ha	500m ²		上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
令和元年度 (2019)	放士ヶ瀬新遺跡	11月26日～12月23日	13日	4.6ha	790m ²		上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
令和2年度 (2020)	放士ヶ瀬新遺跡	10月14日～11月9日	14日	5.6ha	911m ²		上市町教育委員会事務局 係長 三浦知徳
合 計			99日	32.3ha	5,333m ²		



第5図 調査対象地区全体図 [縮尺 1/10,000]

第3章 調査結果

第1節 久金新遺跡

1. 調査の概要

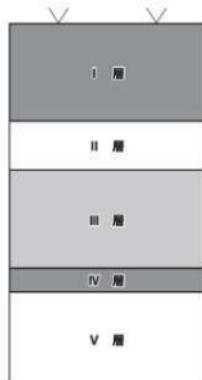
久金新遺跡は、上市町久金新地内に所在する。石割川右岸の平野部に立地し、調査地の標高は 7.0 ~ 8.4 m を測る。現況は水田及び畑地である。本遺跡における過去の発掘調査歴はないが、分布調査では古代・中世・近世の遺物が採取されている。

調査は平成 28 年 11 月 18 日～12 月 14 日、実働 16 日間で実施した。調査対象面積は 5.6ha、試掘トレンチは 48 箇所設定し、発掘面積は 848m²である（第 7 図、第 2 表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレンチは地表面から 0.6 ~ 1.1 m の深さまで掘削した。土層の堆積状況は試掘トレンチによって大きく異なるが、比較的条件の良い場所では I 層：耕作土（20cm）、II 層：盛土・耕盤土（10 ~ 20cm）、III 層：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘質土、20 ~ 30cm）、IV 層：遺物包含層（黒灰～黒褐色粘土、5 ~ 10cm）、V 層：遺構検出面（灰色粘土）の順で堆積する（第 6 図）。ただし、III 層と IV 層は漸移的で区分できない場合も多い。

調査区南端付近の 5 T 及び中央西側の 9・12 ~ 16 Tにおいては比較的安定した状態の遺構面及び遺物包含層が確認されているが、その他の試掘トレンチでは各所で遺構面の落ち込みや傾斜が見られ、植物遺体を含む湿地・池沼性の堆積物で埋まる。また、調査区西半では遺構面や湿地・池沼性堆積物を覆う河川・洪沢砂層が多く確認されており、先述した 9・12 ~ 16 T の一帯以外は全体的に水の付きやすい不安定な土地であったことが窺われる。



第 6 図 久金新遺跡層序模式図

3. 遺構・遺物

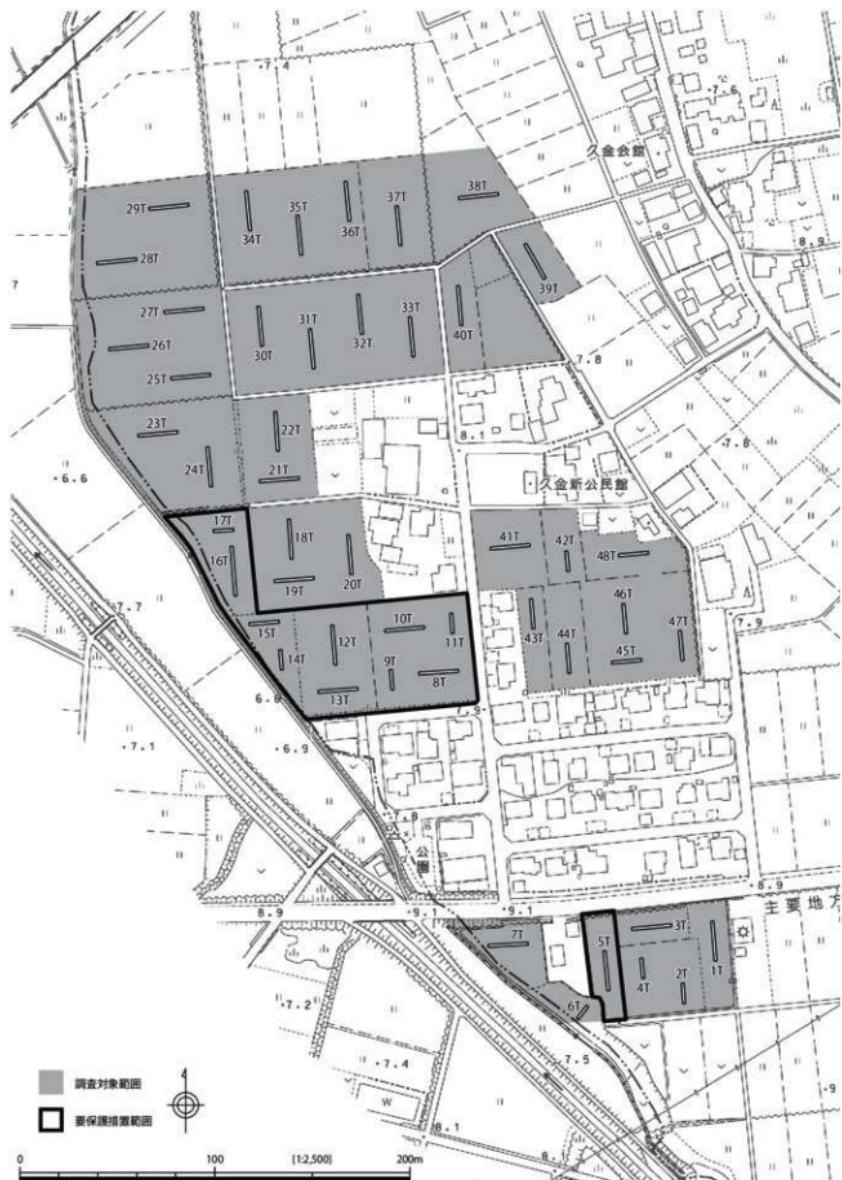
遺構は 5・15 T で溝、12・13・15・34 T で穴を確認したが、いずれも単独の検出で遺物も含まず、時期や性格等は不明である。

遺物は縄文土器、弥生～古代の土師器、古代の須恵器、中世の珠洲・土師器、近世の越中瀬戸が出土した（第 8 図・第 10 表）。IV 層（遺物包含層）から出土したのは 5 T の須恵器（22）、16 T の須恵器（23）、26 T の土師器のみで、いずれも小片で散発的である。その他は I ～ III 層からの出土であり、原位置を遊離しているものである。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査対象地の大部分は特段の保護措置を講じる必要はないが、比較的遺存状況の良い 5・9・12 ~ 16 T 付近においてはさらなる遺構・遺物が存在する可能性があり、保護措置を要する範囲とした。

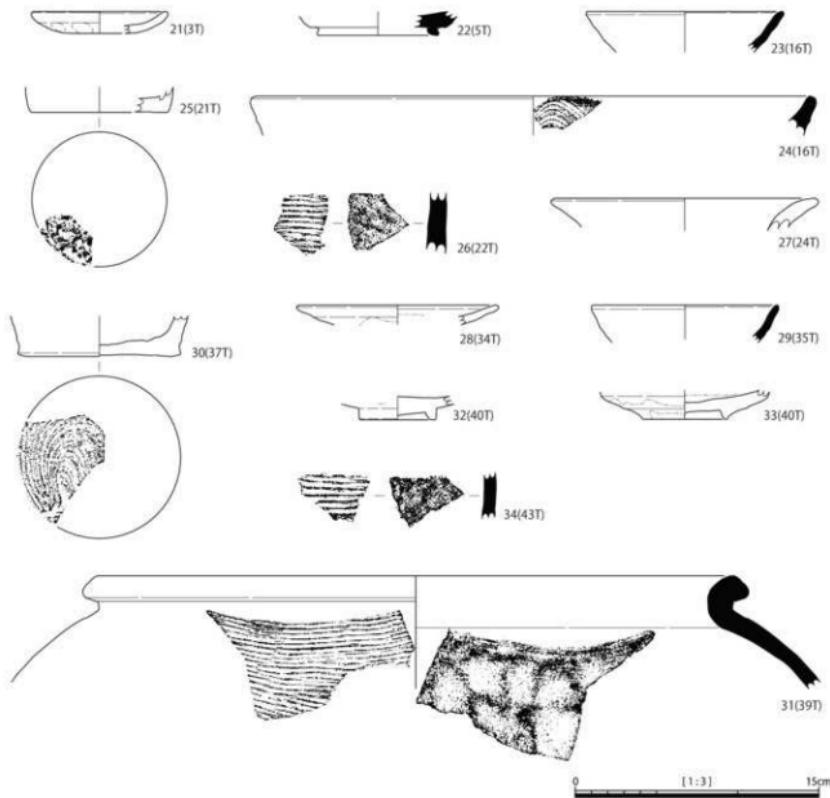
なお、要保護措置範囲のうち、施工に際して保護層の厚さが十分に確保できない部分について令和 2 年 4 ~ 6 月に工事立会を実施し、I・II 層中より古代の須恵器、中世の珠洲、近世の越中瀬戸等を採取している。



第2表 久金新遺跡試掘トレンチ一覧表

番号	深度 (m)	現況高 (m)	遺構面高 (m)	空含留高 (m)	遺構	遺物	備考 (中)	保護
1	20	8.36	7.64	7.78	—	—		
2	10	8.30	7.66	—	—	(砂)		
3	20	8.08	7.70	7.80	土師器 (21)	土師器 / 亂層		
4	10	8.20	7.76	7.82	—	—		
5	20	7.96	7.60	7.72	溝	須恵器 (22)	須恵器 / IV層上面	○
6	8	7.16	—	—	—	—	削平	
7	20	7.40	—	—	—	—	削平	
8	20	7.50	6.98	7.08	—	—	北方に傾斜。(H)	○
9	10	7.50	7.04	7.20	—	—		○
10	20	7.50	7.00	7.10	—	—	東方に傾斜。(H)	○
11	10	7.50	6.92	—	—	—	南方に傾斜。(H)	○
12	20	7.36	6.96	6.96	穴?	—		○
13	20	7.36	7.00	7.06	穴	—		○
14	10	7.20	6.92	7.00	—	—		○
15	15	7.20	6.90	6.90	溝・穴	—		○
16	25	7.10	6.80	6.90	—	須恵器 (23)、珠洲 (24)	北端に落ち込み。(H)、須恵器 / IV層上面、珠洲 / II層	○
17	10	7.10	6.60	—	—	—	(H)	○
18	20	7.36	6.88	—	—	—	南方に傾斜。(H)	
19	20	7.36	6.86	—	田	—		
20	20	7.36	7.14	—	—	—	南方に傾斜。(H)	
21	20	7.34	7.00	—	田	圓文土器 (25)	圓文土器 / II層	
22	20	7.40	6.82	—	—	土師器、珠洲 (26)	北方に傾斜。(H)、珠洲 / III層、土師器 / I層	
23	20	7.10	6.72	—	—	土師器	西方に傾斜。(H)、土師器 / II層	
24	20	7.10	6.78	—	—	乳牛土器 (27)	南方に落ち込み。(H)、乳牛土器 / 塚土	
25	20	7.04	6.72	—	—	—		
26	20	7.04	6.78	—	—	土師器	西方に落ち込み。(H)、土師器 / V層上面	
27	20	7.04	6.70	—	—	土師器	土師器 / III層	
28	20	7.06	—	—	—	圓文土器	圓文土器 / III層	
29	20	7.06	—	—	—	須恵器	須恵器 / II層	
30	20	7.38	6.78	(6.88)	—	—		
31	20	7.38	6.82	(7.00)	—	—		
32	20	7.38	6.84	6.88	—	—	(砂)	
33	20	7.38	7.12	(7.20)	—	—	(砂)	
34	20	7.30	6.78	6.88	穴?	越中廻口 (28)	越中廻口 / I層	
35	20	7.30	6.70	6.90	—	須恵器 (29)	(砂)、須恵器 / II層	
36	20	7.30	—	—	—	—	(H)、(砂)	
37	20	7.46	6.76	7.06	田	越中廻口 (30)	(H)、(砂)、越中廻口 / II層	
38	70	7.60	—	—	—	—	(H)、(砂)	
39	20	7.62	—	—	—	珠洲 (31)	(H)、(砂)、珠洲 / I層	
40	20	7.48	—	—	田	越中廻口 (32+33)	(H)、(砂)、越中廻口 / I層	
41	20	7.56	7.16	(7.24)	—	—		
42	10	7.58	7.18	(7.20)	—	—		
43	15	7.68	7.36	—	—	珠洲 (34)	南方に落ち込み。(H)、(砂)、珠洲 / II層	
44	15	7.76	—	—	—	—	(H)、(砂)	
45	15	7.86	—	—	—	—	(H)、(砂)	
46	15	7.86	—	—	—	—	(H)、(砂)	
47	15	7.90	—	—	田	—	(砂)	
48	15	7.86	—	—	—	—	(H)	
計	848	m						

※ () 内はH層の分離ができるまでⅢ層上面の標高としたもの、(H)：潮水・海浜性堆積物あり、(砂)：河川・洪沢砂層あり



第8図 久金新遺跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)

第2節 上荒又南遺跡

1. 調査の概要

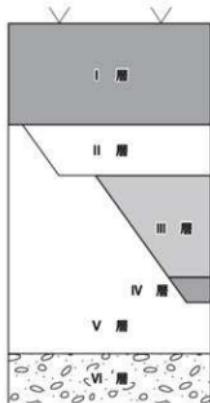
上荒又南遺跡は、上市町上荒又地内に所在する。白岩川右岸の平野部に立地し、調査地の標高は 10.5 ~ 12.4 m を測る。現況は水田及び畑地である。本遺跡における過去の発掘調査歴はないが、分布調査では弥生時代・古代・中世・近世の遺物が採取されている。

調査は平成 28 年 10 月 11 日～11 月 14 日、平成 29 年 10 月 20 日～11 月 10 日、平成 30 年 9 月 6 日～11 日 の実働 23 日間で実施した。調査対象面積は 7.7ha、試掘トレンチは 71 箇所設定し、発掘面積は 1,185m² である（第 10 図、第 3・4 表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレンチは地表面から 0.3 ~ 1.3 m の深さまで掘削した。土層の堆積状況は試掘トレンチによって大きく異なり標準的な層序を設定しにくいか、あえて模式的に理解するならば、I 層：耕作土（20cm）、II 層：盛土・耕盤土（10 ~ 20cm）、III 層：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘質土、20 ~ 30cm）、IV 層：遺物包含層（黒灰～黒褐色粘土、5 ~ 10cm）、V 層：遺構検出面（灰色粘土・黄褐色粘質土）、VI 層：河川砂礫層の順で堆積する（第 9 図）。多くの場合 I 層・II 層の下位にすぐ V 層が現れ、削平等により遺物包含層や遺構面の上部は既に失われているものと判断される。

調査区南半では V 層を切り込んで覆うような河川・洪水砂層が広く見られ、また北西部では安定した V 層自体を確認できず、植物遺体を含む湿地・池沼性の堆積物から VI 層に推移する様相が見て取れ、全体的に水の付きやすい不安定な土地であったことが窺われる。



第 9 図 上荒又南遺跡層序模式図

3. 遺構・遺物

遺構は 27・53 T で穴をそれぞれ 1 基確認したのみで、明確な建物跡等は検出されなかった。53 T の穴は耕作土直下で検出したものであるが、周辺地表面には須恵器片等が散布しており、遺物包含層及び遺構面の上部がやや削平されているものと判断される。また、人為的遺構ではないが 22 T では VI 層の砂が V 層を切って脈状に吹き上がる噴砂痕跡を確認した。各所で V 層を覆っている洪水砂層の存在とも合わせ、安政 5（1858）年の飛越地震及び大鳴刷れに関連した痕跡の可能性がある。

遺物は弥生～古代の土師器、古代の須恵器、中世の珠洲、近世の越中瀬戸が出土した（第 11 図・第 10 表）。27 T の越中瀬戸（37）が II 層下面／V 層直上から出土した以外はいずれも I・II 層中からの散発的な出土で、原位置を遊離しているものである。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査対象地の大部分は特段の保護措置を講じる必要はないが、削平の程度が浅くさらなる遺構・遺物が存在する可能性を残す 53・71 T の一角については、保護措置を要する範囲とした。

なお、この範囲については令和 2 年 5 月に工事立会を実施し、遺構・遺物の不存在を確認している。



第10図 上荒又南遺跡試掘トレンチ配置図（縮尺1/2,500）

第3表 上荒又南遺跡試掘トレンチ一覧表（1）

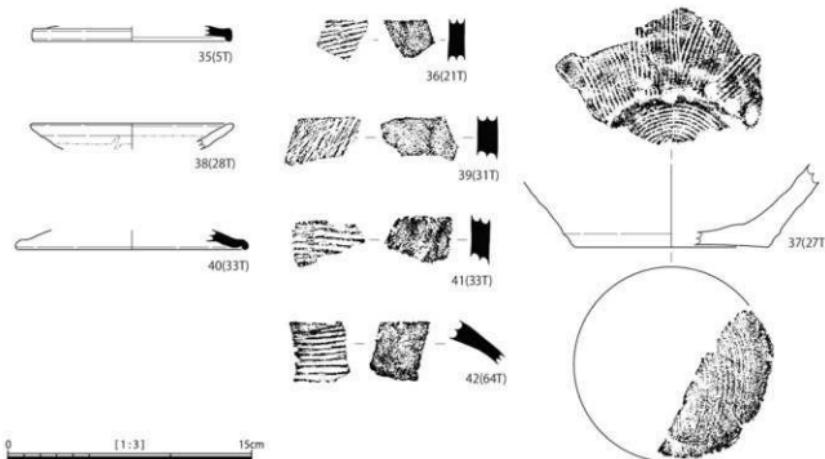
番号	深度 (m)	現況高 (m)	遺構高 (m)	遺構標高 (m) (※)	遺構	遺物	備考 (※)	保護
1	25	12.40	—	—	—	—	(砂)	
2	15	12.40	—	—	—	—		
3	9.5	11.83	11.20	(11.38)	田	—	南方に落ち込み。(砂)	
4	7	11.83	—	—	田	—	(砂)	
5	20	11.70	11.44	—	田	須恵器 (35)	南方に落ち込み。(砂)、須恵器 / I 層	
6	5	11.70	—	—	田	—	(砂)	
7	6.5	11.77	—	—	田	—	(砂)	
8	10	11.68	10.98	11.02	—	—	(砂)	
9	10	11.13	10.48	—	—	—	(砂)	
10	10	11.80	—	—	—	—	(砂)	
11	10	11.80	—	—	—	—	(砂)	
12	20	11.70	—	—	田	—	(砂)	
13	20	11.52	—	—	田	—	(砂)	
14	20	11.52	—	—	田	—	(砂)	
15	20	11.22	10.88	—	—	—		
16	20	11.06	—	—	—	—	(砂)	
17	20	11.06	10.78	—	—	—		
18	20	11.32	11.12	—	—	—	(砂)	
19	20	11.25	11.02	—	—	—	(砂)	
20	20	11.25	11.06	—	—	—	(砂)	
21	20	11.18	10.88	—	—	珠洲 (36)	(砂)、珠洲 / 墓土	
22	20	11.08	10.80	—	—	—	(砂)、噴出痕跡あり	
23	20	10.76	10.50	—	田	—	(砂)	
24	20	10.80	10.50	—	田	—	(砂)	
25	20	10.70	10.38	—	—	—	(砂)	
26	20	11.00	10.66	—	—	—		
27	20	11.00	10.62	—	穴?	越中塙口 (37)	越中塙口 / II 層下面	
28	10	10.82	10.58	—	—	越中塙口 (38)	越中塙口 / I 層	
29	10	10.80	10.54	—	—	—	(砂)	
30	10	10.72	10.48	—	—	—	(砂)	
31	20	10.74	—	—	田	珠洲 (39)	(砂)、珠洲 / II 層	
32	20	10.70	10.50	—	—	—		
33	20	10.68	10.42	—	—	須恵器 (40)、珠洲 (41)	須恵器・珠洲 / II 層	
34	20	10.64	10.36	—	—	—		
35	20	10.70	10.44	—	—	—	(砂)	
36	20	10.52	10.06	—	—	—		
37	20	10.60	10.32	—	—	—		
38	15	10.48	10.38	—	—	—		
39	20	10.45	—	—	—	—		
40	20	10.34	—	—	—	—		
41	20	10.34	—	—	—	—	(砂)	
42	20	10.10	—	—	—	—	(砂)	
43	10	10.10	—	—	—	—	(砂)	
44	10	10.00	—	—	—	—	(砂)	
45	10	10.20	—	—	—	—	(砂)	
46	15	10.38	—	—	—	—	(砂)	
47	20	10.58	—	—	—	—		
48	20	10.40	—	—	—	—	(砂)、(砂)	
49	7	12.68	12.40	—	—	—	削平	
50	5	12.66	12.34	—	—	—	削平	
51	20	12.86	12.42	—	—	—	削平、(砂)	
52	10	13.16	—	—	—	—	全体陥没	
53	10	13.26	13.10	—	穴	—	上面やや削平、周辺地表面に須恵器片散布	○
54	10	12.98	—	—	—	—	全体陥没	
55	10	12.86	12.20	12.30	—	—	(砂)	
56	20	13.20	—	—	—	—	(砂)	
57	20	13.20	—	—	—	—	(砂)	
58	20	13.00	—	—	—	—	(砂)	
59	20	13.00	—	—	—	—	(砂)	
60	20	12.88	—	—	—	越中塙口	(砂)、越中塙口 / III 層	

※ () 内は採取の分離ができず且層上位の標高としたもの、(砂)：泥地・泥炭性堆積物あり。(砂)：河川・洪积砂层あり

第4表 上荒又南遺跡試掘トレンチ一覧表(2)

番号	開闢(m)	埋配高(m)	遺構面高(m)	包含層高(m)	遺構	遺物	参考(申)	保護
61	20	12.76	—	—	—	土器器	(河)、(砂)、土器器 / 1箇	
62	20	12.66	—	—	—	—	(河)、(砂)	
63	20	12.60	—	—	—	—	(河)、(砂)	
64	20	12.56	—	—	—	珠洲(42)	(河)、(砂)、珠洲 / 1箇	
65	20	12.56	—	—	—	—	(河)、(砂)	
66	20	12.56	—	—	—	—	(河)	
67	20	12.08	—	—	—	—	(砂)	
68	20	12.10	—	—	—	—	(砂)	
69	20	12.20	—	—	—	—	(砂)	
70	20	11.46	—	—	—	—	(砂)	
71	15	13.30	13.02	—	—	—	上面やや削平、周辺地表面に須恵器片散在	○
計	1,185	m						

※ (河)：湿地・池沼性堆植物あり。(砂)：河川・洪沕砂層あり



第11図 上荒又南遺跡出土遺物実測図〔縮尺1/3〕

第3節 上荒又北遺跡

1. 調査の概要

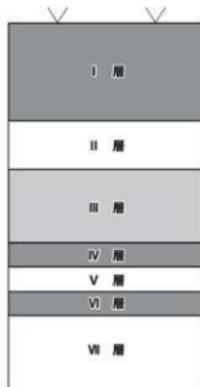
上荒又北遺跡は、上市町上荒又地内に所在する。白岩川右岸の平野部に立地し、調査地の標高は 10.5 ~ 12.4 m を測る。現況は水田及び畑地である。本遺跡における過去の発掘調査歴はないが、分布調査では弥生時代・古代・中世・近世の遺物が採取されている。

調査は平成 29 年 11 月 10 日～12 月 4 日、平成 30 年 9 月 12 日～10 月 12 日の実働 19 日間で実施した。調査対象面積は 6.0ha、試掘トレンチは 56 箇所設定し、発掘面積は 944m²である（第 13 図、第 5 表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレンチは地表面から 0.6 ~ 1.1 m の深さまで掘削した。土層は、比較的条件の良い場所では I 層：耕作土（20cm）、II 层：盛土・耕盤土（10 ~ 20cm）、III 层：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘土土、10 ~ 20cm）、IV 层：上層遺物包含層（暗灰～黒灰色粘土、5 ~ 10cm）、V 层：上層遺構検出面（灰色粘土、5 ~ 10cm）、VI 层：下層遺物包含層（黒灰色粘土、5 ~ 10cm）、VII 层：下層遺構検出面（灰～灰白色粘土）の順で堆積する（第 12 図）。ただし、III 层と IV 层は漸移的に区分できない場合も多い。

試掘トレンチ全域でこの基本土層が安定して確認される範囲は少なく、多くの場合各所で遺構面の落ち込みや傾斜があり、植物遺体を含む湿地・池沼性堆積物や河川・洪水砂層が見られる。また、11・31・32・35 ~ 38・49 T では IV・V 层が失われ、III 层の下位に直接 VI 层が存在していると判断できる状況が覗われる。



第 12 図 上荒又北遺跡層序模式図

3. 遺構・遺物

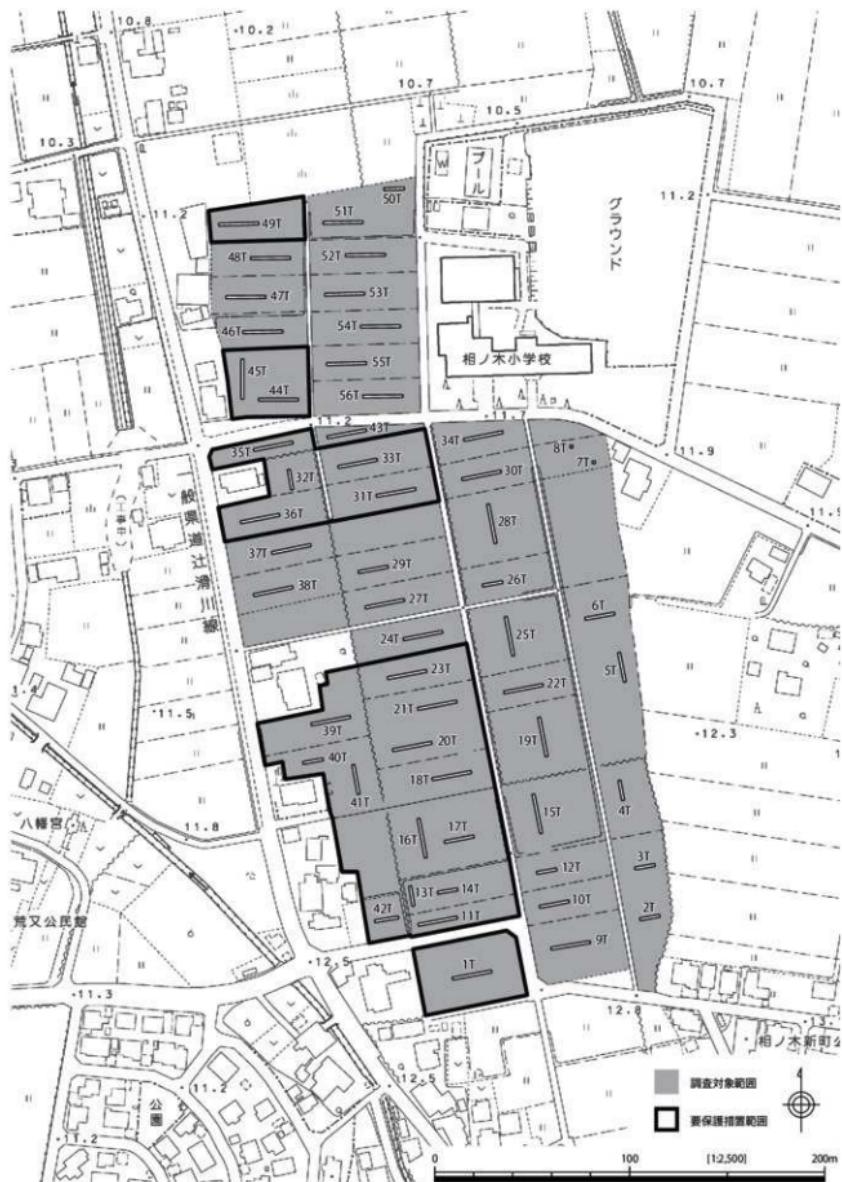
遺構は VII 层（上層遺構面）では 23 T で溝、VII 层（下層遺構面）では 36 T で 2 基の穴、42 T で土坑状の落ち込みを確認した。いずれも単独の検出で詳細は不明だが、42 T の土坑は土師器の大型破片複数個体分を伴う。

遺物は縄文土器、弥生土器、古代の須恵器・土師器、中世の珠洲、近世の越中瀬戸、石器が出土した（第 14・15 図、第 10 表）。多くは I ~ III 层からの出土で原位置を離れているものであるが、42 T の縄文土器（57）・土師器（58 ~ 62）は VII 层の土坑から、また I・11・33 T の弥生土器（44・46）は VI 层、17 T の須恵器（48）は IV 层、49 T の縄文土器（67・68）は VII 层上面で出土した。42 T の土坑出土遺物と 49 T の VII 层上面遺物はある程度のまとまりを有するが、他はいずれも散発的な出土である。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査区においては全体として濃密な遺構・遺物の分布は見られないものの、ある程度の土層の安定性と遺構・遺物の状況を勘案し、1・11・13・14・16～18・20・21・23・39～42 T 付近、31～33・35・36・44・45 T 付近、49 T 付近の大きく 3 箇所の範囲について、保護措置を要する範囲とした。

なお、要保護措置範囲のうち、施工に際して保護層の厚さが十分に確保できない部分について令和 2 年 6 月から工事立会を実施しているが、33 T 南西部の狭い範囲において II 层中より多量の須恵器が出土している。31・32・35 ~ 37 T にかけて存在した微高地の上層遺物包含層（IV 层）・上層遺構面（V 层）が削平され、二次的な移動を経て集積されたものと推測される。他遺跡も含め工事立会は継続中で、詳細報告は稿を改めて行う予定である。

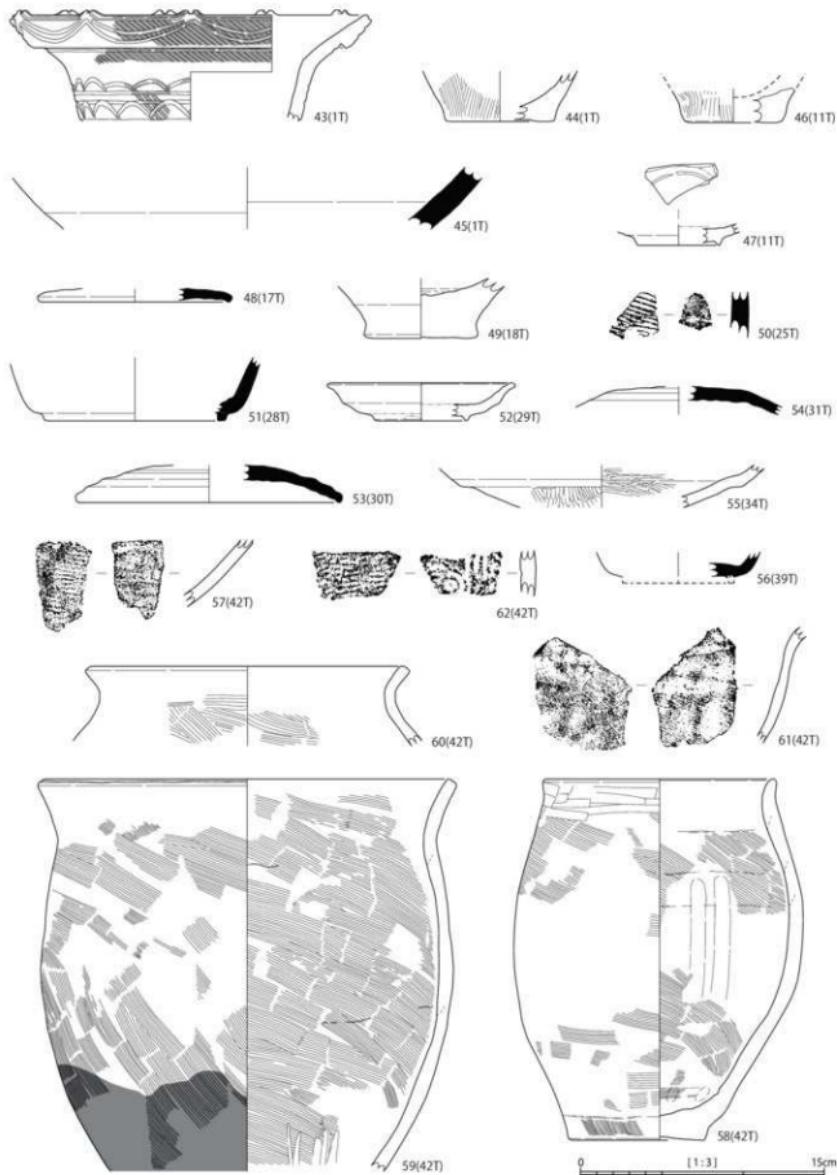


第13図 上荒又北遺跡試掘トレンチ配置図（縮尺1/2,500）

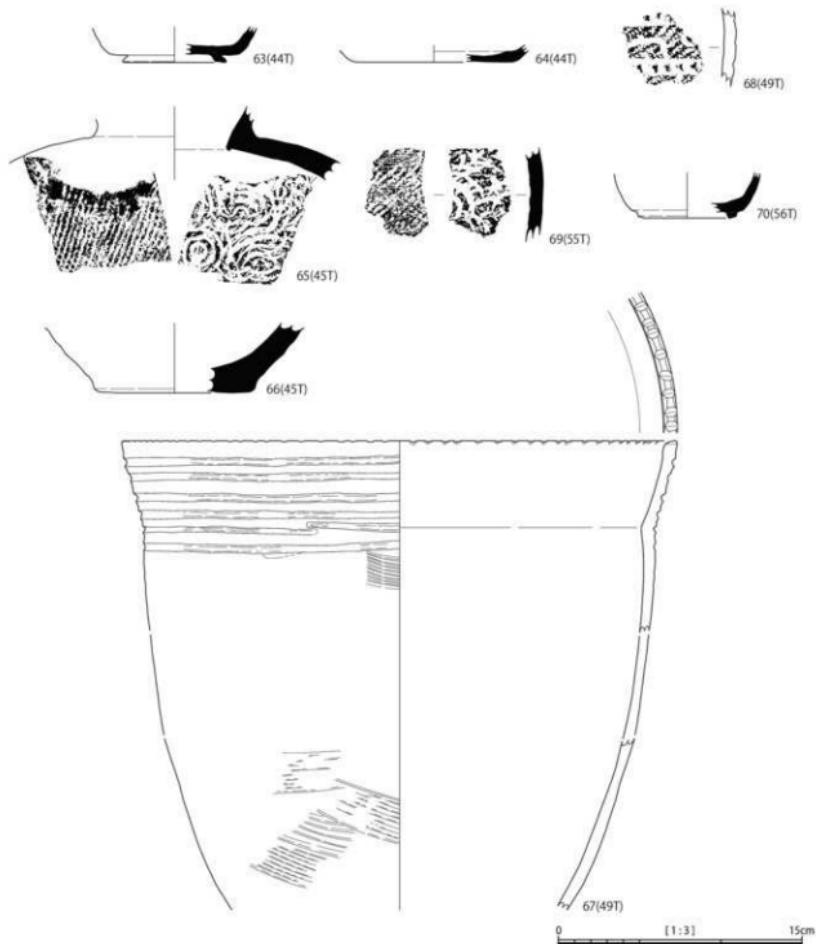
第5表 上荒又北遺跡試掘トレンチ一覧表

番号	距離(m)	現況高(m)	遺構面高(m)	③含層高(m)(#)	遺構	遺物	備考(中)	保護
1	20	12.36	11.90/11.64	12.00/11.76	—	出生土器(43・44)、石器、珠串(45)	(2面)、(砂)、出生土器・石器・瓦器、珠串 / I層	○
2	10	12.30	11.80	—	—	—	GHD	
3	10	12.30	11.70	—	—	—	(砂)	
4	10	12.00	11.68	—	道路	—	南方に落ち込み、GHD	
5	15	12.02	—	—	—	—	GHD	
6	15	12.02	—	—	—	—	GHD	
7	1	11.88	—	—	—	—	GHD	
8	1	11.88	—	—	—	—	GHD	
9	20	12.40	11.98	(12.16)	—	—	東方に傾斜、東半 GHD	
10	15	12.34	11.75	(11.96)	—	—	東方に傾斜、東半 GHD	
11	20	12.36	11.58	11.68	—	出生土器(46)、石器、 漆中繭戸(47)	東方に傾斜、(砂)、出生土器・石器・瓦器、漆中繭戸 / II層	○
12	10	12.10	11.68	—	—	—	東方に落ち込み、GHD	
13	10	12.10	11.90	11.90	—	—	北方に傾斜、南半削平	○
14	10	12.10	11.76	(11.86)	—	—	(砂)	○
15	20	11.82	11.34	—	—	—	GHD	
16	20	11.86	11.50/11.30	(11.58) /11.40	—	出生土器	(2面)、北方に傾斜、北(砂)、出生土器・瓦器	○
17	15	11.86	11.48/11.26	(11.62) /11.48	—	須恵器(48)	(2面)、(砂)、須恵器 / IV層	○
18	20	11.72	11.24/11.10	(11.40) /11.16	道路	須恵器、土師器(49)	(2面)、須恵器・土師器 / II層	○
19	20	11.82	11.50/11.16	(11.60) /—	—	—	(2面)、(砂)	
20	20	11.60	11.16/11.06	(11.32) /11.14	道路	—	(2面)	○
21	20	11.60	11.12/10.98	(11.24) /11.00	—	—	(2面)、中央 GHD	○
22	20	11.74	11.38/11.12	(11.54) /11.16	—	—	(2面)、西方に落ち込み、GHD	
23	20	11.48	11.08/10.90	(11.24) /11.00	溝	—	(2面)、東方に落ち込み、(砂)、溝は上層	○
24	20	11.42	11.00	(11.12)	川	—	東半部落ち込み	
25	20	11.64	11.30/11.14	(11.48) /11.20	道路	珠洲(50)	(2面)、珠洲 / II層	
26	20	11.66	11.18	(11.38)	—	—	西半部落ち込み、(砂)	
27	20	11.28	10.98	(11.04)	—	—		
28	20	11.64	—	—	須恵器(51)	(砂)、(砂)、須恵器 / I層		
29	15	11.10	10.86	10.82	—	漆中繭戸(52)	東方に傾斜、西半削平、漆中繭戸 / II層	
30	20	11.60	—	—	川	須恵器(53)	(砂)、須恵器 / 川河砂層上面	
31	20	11.02	10.82	10.88	道路	須恵器(54)	上層削除か、須恵器 / I層	○
32	10	10.78	10.56	10.58	道路	土師器	上層削除か半分、土師器 / I層	○
33	20	11.02	10.74/10.52	(10.80) /10.64	道路	出生土器	(砂)、出生土器・瓦器	○
34	20	11.38	—	—	川	出生土器(55)	上層削除か	
35	20	10.80	10.44	10.50	道路	—	上層削除か	○
36	20	10.88	10.48	10.50	穴	土師器	上層削除か、西半に落ち込み、(砂)、土師器 / II層	○
37	20	11.12	10.70	10.74	—	—	上層削除か	
38	20	11.34	10.82/10.70	(10.94) /10.76	—	—	(2面)	
39	20	11.60	11.08/10.90	(11.22) /10.98	—	須恵器(56)	(2面)、須恵器 / I層	○
40	10	11.66	11.12/10.92	(11.32) /10.98	—	—	(2面)	
41	15	11.66	11.24/11.08	(11.34) /11.14	—	出生土器	(2面)、北方へ傾斜、出生土器・耕土	○
42	12	12.04	11.68/11.52	(11.82) /11.60	北坑	縄文土器(57)、 土師器(58・62)	(2面)、土坑は下層、縄文土器・土師器 / 土坑埋土	○
43	20	11.00	—	—	川	—	(砂)	
44	20	10.90	10.62/10.44	(10.68) /10.52	—	出生土器、石器、 須恵器(63・64)	(2面)、(砂)、出生土器・瓦器、石器 / II層、須恵器・縄土	○
45	20	10.90	10.46/10.40	(10.58) /10.42	—	須恵器(65)、珠洲(66)	(2面)、(砂)、須恵器・珠洲 / II層	○
46	20	10.76	10.40/10.32	(10.56) /10.38	川	—	(2面)、(砂)、(砂)	
47	20	10.70	10.38/10.32	(10.50) /10.30	川	—	(2面)、(砂)、(砂)	
48	20	10.64	10.24/10.06	(10.40) /10.18	—	—	(2面)、(砂)、(砂)	
49	20	10.54	10.20	10.20	—	縄文土器(67・68)	上層削除か、(砂)、縄文土器・瓦器上面	○
50	10	10.66	—	—	—	—	(砂)、(砂)	
51	20	10.68	—	—	—	—	(砂)、(砂)	
52	20	10.70	—	—	—	—	(砂)、(砂)	
53	20	10.80	10.46/10.38	—	—	—	(2面)、(砂)	
54	20	10.86	10.54/10.42	—	—	—	(2面)、(砂)	
55	20	10.96	10.62/10.52	(10.78) /10.56	—	須恵器(69)	(2面)、(砂)、須恵器・耕土	
56	20	11.02	10.68/10.50	(10.74) /10.56	—	須恵器(70)	(2面)、(砂)、(砂)、須恵器・耕土	
計		944	m					

* () 内はIV層の分離ができず最層上面の標示としたもの、(2面)：遺構面上下2面確認、(砂)：泥地・泥沼性堆積物あり、(砂)：川河・洪水砂層あり



第14図 上荒又北跡出土遺物実測図（1）【縮尺1/3】



第15図 上荒又北遺跡出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）

第4節 相ノ木北遺跡

1. 調査の概要

相ノ木北遺跡は、上市町放土ヶ瀬新地内に所在する。白岩川右岸の平野部で石割川に面した位置に立地し、調査地の標高は 9.8 ~ 10.2 m を測る。現況は水田及び畑地である。本遺跡における過去の発掘調査歴はなく、また平成 27 年度の分布調査でも遺物は採取されなかったが、戦前の基盤整備工事の際に弥生土器が出土したとされている。

調査は平成 30 年 9 月 18 日 ~ 26 日、実働 4 日間で実施した。調査対象面積は 1.0ha、試掘トレントチは 8 箇所設定し、発掘面積は 155m² である（第 17 図、第 6 表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレントチは地表面から 0.6 ~ 1.2 m の深さまで掘削した。土層は、比較的条件の良い場所では I 層：耕作土（20cm）、II 層：盛土・耕盤土（10 ~ 20cm）、III 層：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘質土、10 ~ 20cm）、IV 層：遺物包含層（暗灰～黒灰色粘土、5 ~ 10cm）、V 層：遺構検出面（灰色粘土）の順で堆積する（第 16 図）。ただし 1 ~ 4・8 T では田層下位に河川・洪水砂層が広がり、また 5 T では北方から標高を増してくる V 層が試掘トレントチ南端付近で I 層直下に至り、それより南ではやや削平されている状況が確認できる。

3. 遺構・遺物

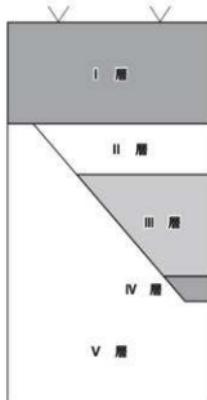
遺構は 7 T で土坑状の落ち込みを確認したが、単独の検出で遺物もなく詳細は不明である。

遺物は縄文土器、中世の珠洲が出土した（第 18 図、第 10 表）。5 T の縄文土器（71）は V 層が I 層直下に至った地点においてほぼ完形の状態で、また 6 T の縄文土器（72 ~ 77）はその延長線上の V 層上面で大型の破片類がまとまった状態で出土した。いずれもほぼ原位置を保っているものと推測され、過去の削平をかろうじて免れたものであろう。

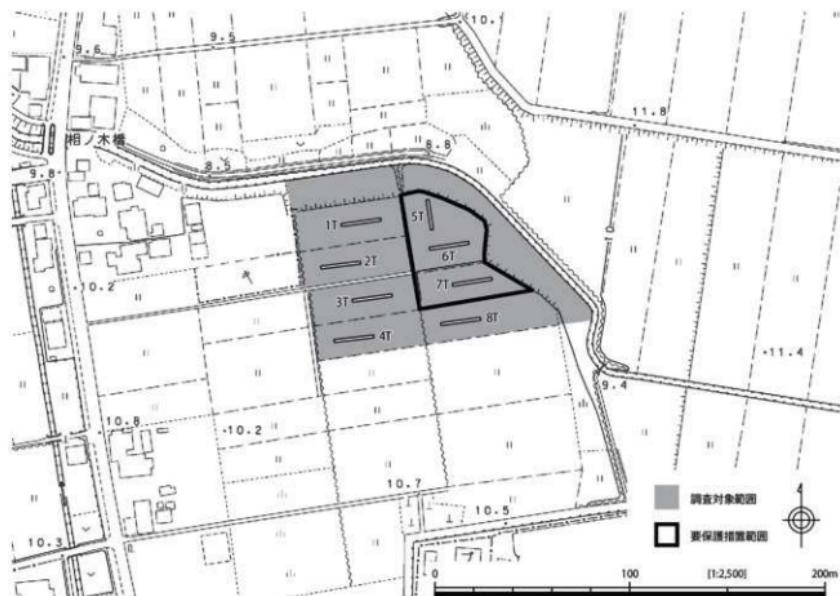
なお、7 T の珠洲は II 層からの出土である。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査区のうち北東側（5 ~ 7 T）の一角については、かつて周囲よりも若干標高が高く安定した状態にあり、過去の基盤整備時に若干の削平を受けながらも遺跡が残存していると考えられることから、保護措置を要する範囲とした。



第 16 図 相ノ木北遺跡層序模式図

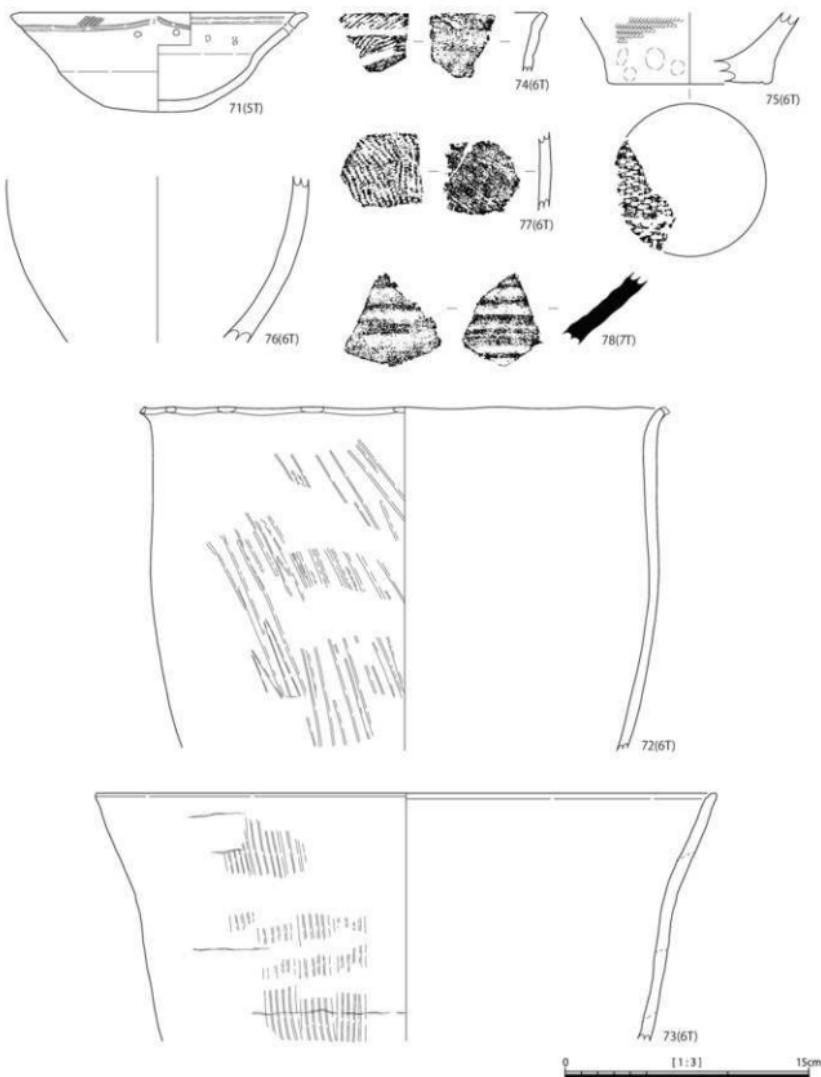


第17図 相ノ木北遺跡試掘トレンチ配置図 (縮尺 1/2,500)

第6表 相ノ木北遺跡試掘トレンチ一覧表

番号	幅員(m)	埋没高(m)	露頭高(m)	露頭幅(m)	遺構	遺物	参考(年)	有無
1	20	9.74	—	—	—	—	(69)	
2	20	9.84	9.40	9.40	—	—	(69)	
3	20	9.98	9.58	9.64	田	—	(69)	
4	20	10.10	9.60	9.60	田	—	(69)	
5	15	9.98	9.80	—	—	縄文土器 (71)	北方に植洞、やや削平、縄文土器 / I層直下 (V層上面)	○
6	20	9.98	9.80	—	—	縄文土器 (72 ~ 77)	やや削平、縄文土器 / V層上面	○
7	20	10.10	9.84	9.90	土坑	珠沢 (78)	珠沢 / II層	○
8	20	10.16	9.64	9.74	田	—	(69)	
計	155	m						

※ (69) : 岡川・渓水砂層あり



第18図 相ノ木北遺跡出土遺物実測図 [縮尺1/3]

第5節 下荒又遺跡

1. 調査の概要

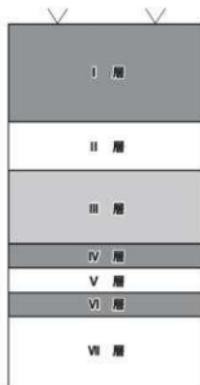
下荒又遺跡は、上市町下荒又地内に所在する。白岩川右岸の平野部に立地し、調査地の標高は10.3～11.6mを測る。現況は水田及び畑地である。本遺跡における過去の発掘調査歴はないが、分布調査では弥生時代・古代・中世・近世の遺物が採取されている。

調査は平成30年11月5日～26日、実働10日間で実施した。調査対象面積は1.8ha、試掘トレンチは26箇所設定し、発掘面積は500m²である（第20図、第7表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレンチは地表面から0.5～1.3mの深さまで掘削した。土層は、比較的条件の良い場所ではⅠ層：耕作土（20cm）、Ⅱ層：盛土・耕盤土（10～20cm）、Ⅲ層：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘土、10～20cm）、Ⅳ層：上層遺物包含層（暗灰～黒灰色粘土、5～10cm）、Ⅴ層：上層遺構検出面（灰色粘土、5～10cm）、Ⅵ層：下層遺物包含層（黒灰色粘土、5～10cm）、Ⅶ層：下層遺構検出面（灰～灰白色粘土）の順で堆積する（第19図）。ただし、Ⅲ層とⅣ層は漸移的に区分できない場合が多く、またⅤ層下位のⅥ層が薄く分離できない場所も多い。

試掘トレンチ全域でこの基本土層が安定して確認される範囲は少なく、多くの場合各所で遺構面の落ち込みや傾斜があり、植物遺体を含む湿地・池沼性堆積物や河川・洪水砂層で埋まる。全体的に水の付きやすい不安定な土地であったことが窺われる。



第19図 下荒又遺跡層序模式図

3. 遺構・遺物

遺構は河川跡や自然流路以外には確認されなかった。

遺物は弥生土器、古代の須恵器・土師器が出土した（第21図、第10表）。21Tの弥生土器小片がVI層から出土した以外はいずれもⅡ・Ⅲ層及び河川砂層からの出土で、原位置を離れているものである。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査区においては全体として遺構・遺物の分布が希薄で、特段の保護措置を講ずる必要はないものと判断した。

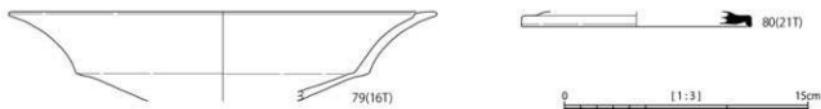


第20図 下荒又遺跡試掘トレンチ配置図 [縮尺 1/2,500]

第7表 下荒又遺跡トレンチ一覧表

番号	胸深(m)	現況高(m)	遺構面高(m)	遺構標高(m)(#)	遺構	遺物	備考(中)	保護
1	20	10.50	—	—	—	—	削平	
2	15	10.50	—	—	—	—	削平	
3	20	11.60	10.95	11.06	川	—	(砂)	
4	20	11.60	11.36/11.14	11.28/11.38	—	—	(2面)、北方に傾斜	
5	20	11.64	11.00/10.86	11.10/10.92	—	—	(2面)、北方に傾斜、(砂)	
6	20	11.64	10.92/10.82	11.06/10.90	—	遺壙器、土師器	(2面)、西方に傾斜、遺壙器・土師器 / II層	
7	20	11.60	10.90/10.72	—/10.84	—	—	(2面)、(砂)	
8	20	10.56	10.60	10.84	—	—	(砂)、(砂)	
9	15	11.50	10.76	10.88	—	—	(砂)、(砂)	
10	20	11.40	10.82/10.72	(11.00) /10.88	池路	—	(2面)、(砂)	
11	20	10.26	9.94	9.94	—	—	(砂)、(砂)	
12	20	10.70	10.16/10.08	—/10.16	—	—	(2面)、(砂)	
13	15	10.28	10.02/9.92	—/9.96	—	先生土器	(2面)、(砂)、先生土器 / 河川・洪水砂層	
14	20	10.28	9.96/9.88	—/9.90	—	—	(2面)、(砂)	
15	20	10.78	10.22/10.10	—/10.16	川	—	(2面)、(砂)	
16	20	10.78	10.32	—	川	先生土器 (79)	(砂)、先生土器 / III層	
17	15	10.96	10.12	10.16	川	—	(砂)	
18	20	10.96	10.14	10.30	川	—	(砂)	
19	20	10.90	10.28/10.14	10.34/10.20	—	—	(2面)	
20	20	10.84	10.36/10.30	10.60/10.36	—	—	(2面)、(砂)	
21	20	10.76	10.34/10.20	10.38/10.28	川	先生土器、遺壙器 (80)	(2面)、(砂)、先生土器 / III層、遺壙器 / III層	
22	20	10.78	10.34/10.24	—/10.26	—	—	(2面)、(砂)	
23	20	10.58	10.24	—	—	—	削平、西平で落ち込み、(砂)、(砂)	
24	20	10.50	10.20	—	川	—	削平、(砂)	
25	20	10.50	10.20/10.08	—/10.12	川	—	(2面)、(砂)	
26	20	10.50	10.26/10.18	—/10.20	川	—	(2面)、(砂)	
計	500	m						

* () 内はIV層の分離ができず直層上面の標高としたもの、(2面)：遺構面上下2面確認、(砂)：泥地・泥炭性堆植物あり、(砂)：河川・洪水砂層あり



第21図 下荒又遺跡出土遺物実測図 (縮尺1:3)

第6節 放土ヶ瀬新遺跡

1. 調査の概要

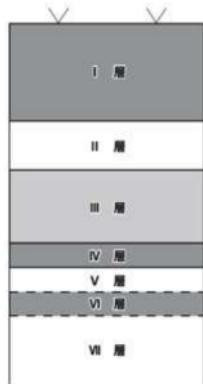
放土ヶ瀬新遺跡は、上市町放土ヶ瀬新地内に所在する。白岩川右岸の平野部に立地し、調査地の標高は9.7～10.5mを測る。現況は水田及び畑地である。遺跡の北西端部において平成10年度に宅地造成工事に伴う本発掘調査が実施されており、弥生時代中期の遺構・遺物が確認されている（調査時は「放土ヶ瀬北遺跡」の一部であった）。分布調査では縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺物が採取されている。

調査は令和元年11月26日～12月23日、令和2年10月14日～11月9日の実働27日間で実施した。調査対象面積は10.2ha、試掘トレンチは90箇所設定し、発掘面積は1,701m²である（第23図、第8・9表）。

2. 土層の堆積状況

試掘トレンチは地表面から0.5～1.0mの深さまで掘削した。土層は、比較的条件の良い場所ではⅠ層：耕作土（20cm）、Ⅱ層：盛土・耕盤土（10～20cm）、Ⅲ層：旧耕作土（暗灰～暗灰褐色粘質土、10～20cm）、Ⅳ層：遺物包含層（暗灰～黒灰色粘土、5～10cm）、Ⅴ層：遺構検出面（灰色粘土）の順で堆積するが、73TのみでⅥ層：下層遺物包含層（黒灰色粘土、5～10cm）、Ⅶ層：下層遺構検出面（灰～灰白色粘土）の分離ができた（第22図）。Ⅲ層とⅣ層は漸移的に区分できない場合が多い。

試掘トレンチ全域でこの基本土層が安定して確認される範囲は少なく、多くの場合各所で遺構面の落ち込みや傾斜があり、植物遺体を含む湿地・池沼性堆積物や河川・洪水砂層で埋まる。特に調査区北東部の一帯では著しく、全体的に水の付きやすい不安定な土地であったことが窺われる。



第22図 放土ヶ瀬新遺跡層序模式図

3. 遺構・遺物

遺構は、溝と思しきものが50・63・78Tで確認されたが、全体的に河川跡や自然流路も多く区分が困難である。

遺物は弥生土器、古代の須恵器・土師器、中世の珠洲・青磁、近世の越中瀬戸等が出土した（第24図、第10表）。46Tの土師器小片がVI層、51Tの土師器小片がV層上面、86Tの土師器（89）がIV層から出土した以外はいずれもⅠ～Ⅲ層及び河川砂層・池沼性堆積物からの散発的な出土で、原位置を離れているものである。

4. 調査後措置

以上より、今回の調査区においては全体として遺構・遺物の分布が希薄で、特段の保護措置を講ずる必要はないものと判断した。



第23図 下荒又遺跡試掘トレンチ配置図 [縮尺 1/2,500]

第8表 放士ヶ瀬新遺跡トレンチ一覧表(1)

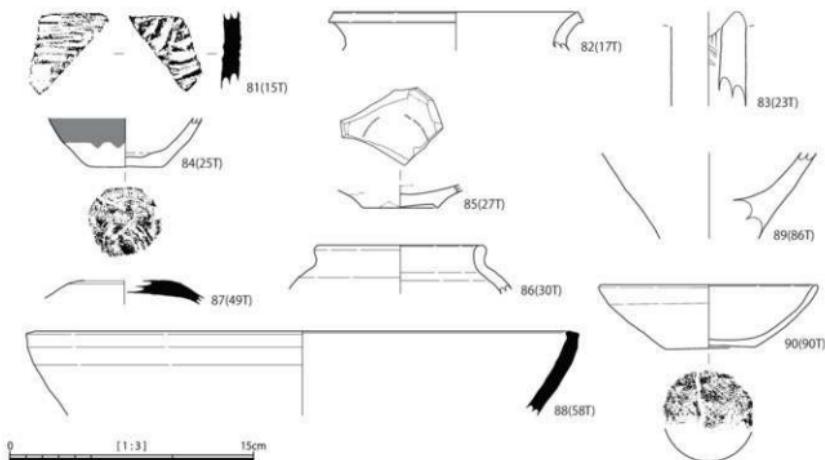
番号	開拓(m)	標高(m)	遺構面高(m)	加古標高(m)(※)	遺構	遺物	参考(※)	保護
1	20	9.90	—	—	—	—	(H)	
2	20	10.04	—	—	—	—	(H), (G)	
3	20	10.08	—	—	—	—	(H)	
4	20	10.16	—	—	—	—	(H), (G)	
5	20	10.18	—	—	—	—	(H), (G)	
6	20	10.18	—	—	—	—	(H)	
7	10	9.80	—	—	—	—	(H)	
8	20	10.16	9.66	—	川	—	(H), (G)	
9	20	10.16	9.70	—	—	—	(H), (G)	
10	20	10.28	—	—	—	—	(H), (G)	
11	20	10.22	—	—	—	—	(H), (G)	
12	20	10.16	—	—	—	—	(G)	
13	20	10.10	—	—	—	—	(G)	
14	20	10.10	—	—	—	—	(G)	
15	20	10.00	—	—	須恵器 (S1)	(H), (G), 須恵器 / 瓦器	(H), (G), 須恵器 / 瓦器	
16	20	9.92	—	—	川	土師器	(G), 土師器 / 河川堆植物	
17	20	9.90	—	—	—	須生土器 (G2), 青磁	(H), (G), 須生土器 + 青磁 / 淀水砂層	
18	20	9.86	—	—	—	近世陶器	(H), (G), 近世陶器 / H層	
19	20	9.70	—	—	—	—	(H), (G)	
20	20	9.58	—	—	流路	—	(H), (G)	
21	20	9.58	—	—	流路	—	(H), (G)	
22	20	9.56	—	—	—	—	(H), (G)	
23	20	9.72	—	—	—	須生土器 (G3)	(G), 須生土器 / 瓦器	
24	20	9.78	—	—	—	須生土器	(H), (G), 須生土器 / 瓦器	
25	20	9.84	—	—	—	土師器 (S4)	(H), (G), 土師器 / 瓦器	
26	20	9.90	—	—	—	—	(H), (G)	
27	20	10.06	—	—	—	越中窯口 (S5)	(G), 越中窯口 / H層	
28	20	10.00	—	—	—	—	(H), (G)	
29	20	9.96	—	—	—	—	(H), (G)	
30	20	10.08	—	—	—	越中窯口 (S6)	(H), 越中窯口 / 瓦器	
31	20	10.08	—	—	—	越中窯口	(H), (G), 越中窯口 / H層	
32	20	10.20	—	—	—	須生土器	(H), (G), 須生土器 / 瓦器	
33	20	10.22	—	—	—	—	(H)	
34	20	10.22	9.85	(9.95)	—	須恵器	須恵器 / I層	
35	20	10.38	9.98	(10.06)	—	—		
36	20	10.46	10.14	10.20	流路	—		
37	20	10.50	10.08	10.15	—	—		
38	20	10.50	10.16	10.22	—	—		
39	20	10.54	10.34	10.34	流路	—	西平削平	
40	20	10.48	10.16	—	流路	—	削平	
41	15	10.50	10.15	10.28	—	土師器	(H), (G), 土師器 / 淀水堆植物	
42	15	10.50	10.20	10.30	—	—		
43	20	10.58	10.20	10.15	流路	—	西方に傾斜、東平削平	
44	20	10.56	10.00	10.08	—	—		
45	20	10.50	10.02	10.20	流路	越中窯口	越中窯口 / II層	
46	20	10.48	9.78	9.94	—	土師器	土師器 / IV層	
47	10	10.38	9.90	10.05	—	—		
48	20	10.38	9.90	10.08	—	—		
49	20	10.26	9.82	9.92	—	須恵器 (S7)	須恵器 / 瓦器	
50	20	10.14	9.80	(9.86)	溝?	—	自然路跡か	
51	20	10.02	9.60	(9.70)	—	土師器、越中窯口	土師器 / V層上面、越中窯口 / II層	
52	20	9.92	9.52	(9.62)	—	須恵器	須恵器 / II層	
53	20	9.86	—	—	—	—	(H), (G)	
54	20	9.78	—	—	—	—	(H)	
55	20	9.70	—	—	—	—	(H), (G)	
56	20	9.62	—	—	—	—	(H), (G)	
57	20	9.42	—	—	—	—	(G)	
58	20	9.38	9.05	(9.15)	—	躑躅 (B8)	(G), 踯躅 / 淀水砂層	
59	20	9.32	9.00	(9.10)	流路	—		
60	8	9.28	9.00	(9.11)	—	—	(G)	

※ () 内は各層の分離ができず並列上面の標高としたもの。(H): 濕地・泄水性堆植物あり。(G): 河川・淀水砂層あり

第9表 放士ヶ瀬新遺跡試掘トレンチ一覧表（2）

番号	胸深 (m)	現況高 (m)	遺構面高 (m)	堆積層高 (m)	遺構	遺物	備考 (中)	保護
61	15	9.24	—	—	—	—	(GR)	
62	8	9.30	—	—	—	—	(GR)	
63	20	9.40	9.04	(9.14)	溝?	—	自然流路か	
64	20	9.50	—	—	—	—	(GR)	
65	15	9.46	9.10	9.16	—	—	南端で落ち込み、(GR)、(砂)	
66	10	9.60	—	—	—	—	(GR)、(砂)	
67	20	9.56	9.12	(9.30)	—	—	中央・右側で落ち込み、(GR)	
68	15	9.72	9.30	(9.42)	道路	—	(GR)、(砂)	
69	15	9.82	9.35	(9.52)	道路	—	西端で落ち込み、(GR)、(砂)	
70	20	9.76	9.40	(9.50)	—	—	—	
71	20	9.92	9.48	9.50	—	—	西半で落ち込み、(GR)	
72	20	9.90	9.50	(9.60)	—	—	—	
73	20	9.96	9.50/9.46	9.68/9.50	—	—	(2面)	
74	20	10.12	9.74	(9.80)	—	—	—	
75	20	10.08	9.66	(9.80)	川	—	(砂)	
76	20	10.20	9.74	—	川	—	(砂)	
77	20	10.22	9.80	9.80	—	—	(砂)	
78	20	10.30	9.80	9.92	溝?	—	自然流路か	
79	20	10.30	9.78	(9.94)	—	—	—	
80	20	10.38	9.85	9.87	—	—	—	
81	20	10.20	9.80	(9.92)	—	—	(砂)	
82	20	10.20	9.92	(9.98)	川	—	(GR)、(砂)	
83	20	10.48	—	—	—	—	(GR)、(砂)	
84	10	10.36	9.80	9.90	—	—	西半で落ち込み、(GR)	
85	20	10.52	—	—	—	—	(GR)、(砂)	
86	20	10.46	10.20	10.26	—	須恵器、土師器 (89)	須恵器 / 土器、土師器 / IV層	
87	15	10.42	10.27	—	—	—	削平	
88	20	10.28	9.98	—	—	—	西半削平、東半で落ち込み、(GR)、(砂)	
89	20	10.28	10.00	(10.06)	—	—	西端で落ち込み、(GR)、(砂)	
90	20	10.16	9.90	9.90	—	須恵器、土師器 (90)	西端で落ち込み、(GR)、(砂)、須恵器 / I層、土師器 / 池沼堆植物	
計	1,701	m						

※ () 内はIV層の分離ができず並層上面の標品としたもの、(2面)：遺構面上下2面確認、(GR)：泥炭・池沼性堆植物あり、(砂)：河川・洪水砂層あり



第24図 放士ヶ瀬新遺跡出土遺物実測図 [縮尺 1/3]

第10表 報告遺物一覧表

番号	遺物名	T	層位	種別	器種	備考	番号	遺物名	T	層位	種別	器種	備考
1	久金新	分布調査	須恵器	有台杯		底径 8.6cm	46	上荒又北	II	V層	弥生土器	杯	底径 6.0cm
2	久金新	分布調査	須恵器	縹拂類			47	上荒又北	II	II層	越中繩口	皿	底径 5.0cm、鉢輪
3	久金新	分布調査	珠洲	縹拂類			48	上荒又北	II	IV層	須恵器	杯蓋	口径 11.6cm
4	久金新	分布調査	瀬戸美濃	天目茶碗	口径 13.0cm、鉢輪		49	上荒又北	II	II層	土師器	皿	底径 5.7cm、柱状高台
5	上荒又南	分布調査	須恵器	有台杯		底径 7.4cm	50	上荒又北	II	II層	珠洲	縹拂類	
6	上荒又南	分布調査	須恵器	皿			51	上荒又北	II	I層	須恵器	有台杯	底径 10.4cm
7	上荒又南	分布調査	珠洲	甕			52	上荒又北	II	II層	越中繩口	皿	口径 11.0cm、高さ 2.3cm、底径 5.4cm、口輪
8	上荒又南	分布調査	越中繩口	皿		底径 5.2cm、灰輪	53	上荒又北	III	IV層	須恵器	杯蓋	口径 18.0cm
9	上荒又北	分布調査	須恵器	杯蓋		口径 14.6cm	54	上荒又北	III	I層	須恵器	杯蓋	
10	上荒又北	分布調査	須恵器	有台杯		底径 9.0cm	55	上荒又北	III	IV層	弥生土器	高杯／器台	
11	上荒又北	分布調査	須恵器	帶		口径 7.8cm	56	上荒又北	III	I層	須恵器	有台杯	
12	上荒又北	分布調査	須恵器	縹拂類			57	上荒又北	III	II層	縹文土器	浅鉢	
13	下荒又	分布調査	須恵器	杯蓋			58	上荒又北	III	II層	土師器	甕	口径 14.0cm、高さ 22.2cm、底径 8.5cm
14	下荒又	分布調査	須恵器	甕		底径 5.0cm	59	上荒又北	III	II層	土師器	甕	口径 24.8cm
15	下荒又	分布調査	珠洲	片口鉢		底径 10.2cm	60	上荒又北	III	II層	土師器	甕	口径 19.0cm
16	下荒又	分布調査	珠洲	縹拂類			61	上荒又北	III	II層	土師器	甕	
17	下荒又	分布調査	珠洲	縹拂類			62	上荒又北	III	II層	土師器	甕	
18	放土ヶ瀬新	分布調査	須恵器	有台杯		底径 9.8cm	63	上荒又北	III	II層	須恵器	有台杯	底径 6.0cm
19	放土ヶ瀬新	分布調査	須恵器	皿			64	上荒又北	III	II層	須恵器	無台杯	底径 10.3cm
20	放土ヶ瀬新	分布調査	越中繩口	茶入		底径 3.2cm、鉢輪	65	上荒又北	III	II層	須恵器	甕	
21	久金新	3	Ⅳ層	須恵器	皿	口径 2.1cm、高さ 1.4cm、底径 3.1cm	66	上荒又北	III	II層	須恵器	縹拂類	底径 10.0cm
22	久金新	5	Ⅳ層	須恵器	有台杯	底径 7.3cm	67	上荒又北	III	Ⅴ層	縹文土器	深鉢	口径 34.0cm
23	久金新	16	Ⅳ層	須恵器	杯／碗	口径 12.0cm	68	上荒又北	III	Ⅴ層	縹文土器	深鉢	
24	久金新	16	II層	珠洲	片口鉢	口径 34.0cm	69	上荒又北	III	II層	須恵器	縹拂類	
25	久金新	21	II層	縹文土器	深鉢	底径 8.3cm	70	上荒又北	III	II層	須恵器	有台杯	底径 5.3cm
26	久金新	22	Ⅳ層	珠洲	縹拂類		71	相ノ木北	5	V層	縹文土器	浅鉢	口径 18.0cm、高さ 6.1cm、底径 6.0cm（丸底）
27	久金新	24	土坑	弥生土器	甕	口径 12.9cm	72	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	口径 32.0cm
28	久金新	34	I層	越中繩口	皿	口径 12.0cm、灰輪	73	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	口径 38.0cm
29	久金新	35	II層	須恵器	杯／碗	口径 11.7cm	74	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	
30	久金新	37	II層	越中繩口	皿	底径 10.0cm	75	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	底径 9.4cm
31	久金新	39	I層	珠洲	甕	口径 39.2cm	76	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	
32	久金新	40	I層	越中繩口	皿	底径 4.6cm、鉢輪	77	相ノ木北	6	V層	縹文土器	深鉢	
33	久金新	40	I層	越中繩口	皿	底径 5.0cm、鉢輪	78	相ノ木北	7	II層	須恵器	片口鉢	
34	久金新	43	II層	珠洲	縹拂類		79	下荒又	16	Ⅳ層	弥生土器	高杯／器台	口径 25.6cm
35	上荒又南	5	I層	須恵器	杯蓋	口径 12.0cm	80	下荒又	21	Ⅳ層	須恵器	杯蓋	口径 14.0cm
36	上荒又南	21	土坑	珠洲	縹拂類		81	放土ヶ瀬新	15	Ⅳ層	須恵器	縹拂類	
37	上荒又南	27	II層	越中繩口	縹拂	底径 12.0cm、鉢輪	82	放土ヶ瀬新	17	洪水	弥生土器	甕	口径 15.0cm
38	上荒又南	28	I層	越中繩口	皿	口径 12.2cm、灰輪	83	放土ヶ瀬新	23	Ⅳ層	弥生土器	高杯／器台	脚部 4.6cm
39	上荒又南	31	土坑	珠洲	縹拂類		84	放土ヶ瀬新	25	Ⅳ層	土師器	甕	底径 4.5cm
40	上荒又南	33	II層	須恵器	杯蓋	口径 14.0cm	85	放土ヶ瀬新	27	Ⅳ層	越中繩口	皿	底径 4.5cm、鉢輪
41	上荒又南	33	土坑	珠洲	縹拂類		86	放土ヶ瀬新	30	Ⅳ層	越中繩口	甕	口径 10.0cm、縁輪
42	上荒又南	64	I層	珠洲	縹拂類		87	放土ヶ瀬新	49	Ⅲ層	須恵器	杯蓋	
43	上荒又北	1	II層	弥生土器	甕	口径 21.6cm、天井凹式	88	放土ヶ瀬新	58	洪水	珠洲	片口鉢	口径 32.8cm
44	上荒又北	1	VI層	弥生土器	縹拂類	底径 7.1cm	89	放土ヶ瀬新	56	IV層	土師器	甕	口径 13.2cm、高さ 4.0cm、底径 5.6cm
45	上荒又北	1	I層	珠洲	片口鉢		90	放土ヶ瀬新	90	池底	土師器	甕	

第4章 総 括

今回の試掘調査の結果をここまで述べてきたが、そこから得られた見解を簡単に整理し、本報告のまとめとしたい。

調査の概要

今回の調査は県営農地整備事業（相ノ木中部北地区・相ノ木中部南地区）に伴うもので、事業対象範囲にかかる久金新遺跡・上荒又南遺跡・上荒又北遺跡・相ノ木北遺跡・下荒又遺跡・放土ヶ瀬新遺跡の6遺跡について、埋蔵文化財の保護と工事との調整を図るための試掘調査を実施したものである。遺跡別の概要は次のとおりである。

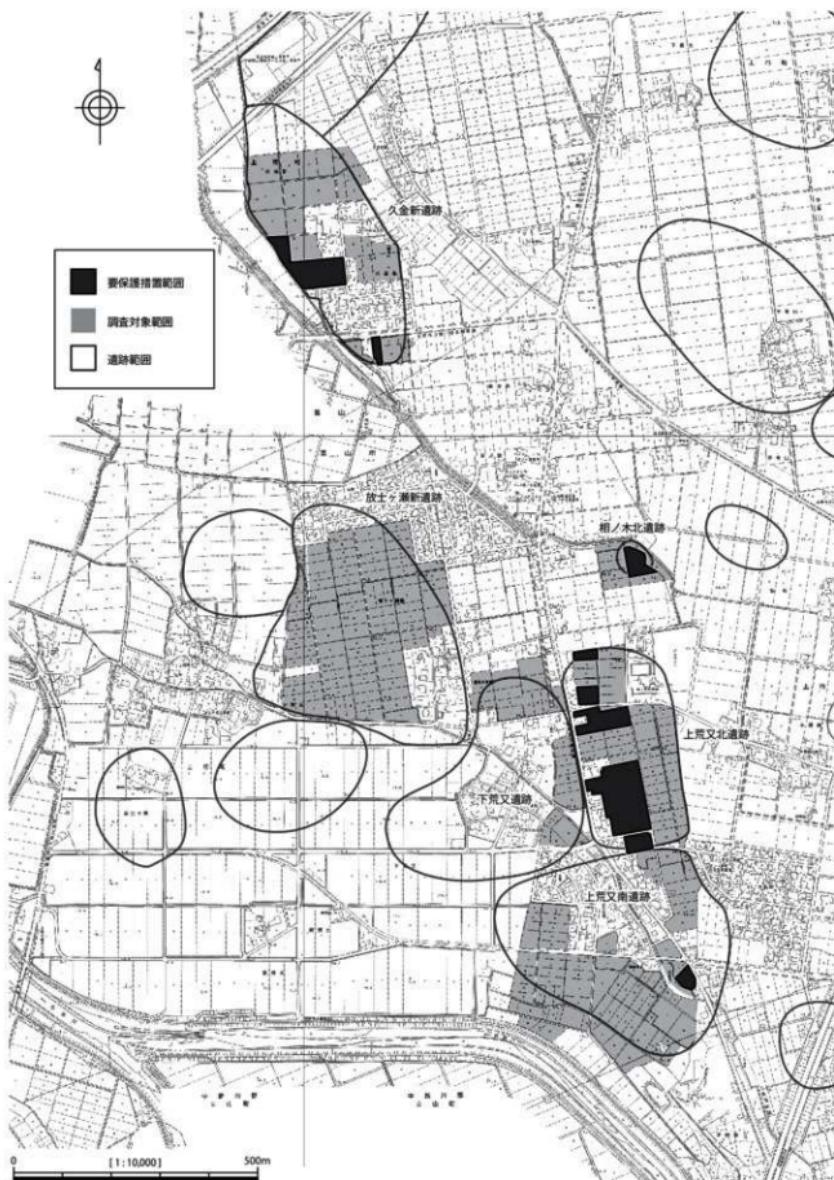
- ・久金新遺跡 調査年次：平成 28 年度 調査対象面積：5.6ha 試掘トレンチ：48 箇所
調査面積：848m² 遺構：穴 遺物：縄文土器、弥生～古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、中世土師器、近世越中瀬戸 調査後措置：一部を保護措置
- ・上荒又南遺跡 調査年次：平成 28 ～ 30 年度 調査対象面積：7.7ha 試掘トレンチ：71 箇所
調査面積：1,185m² 遺構：穴 遺物：弥生～古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、近世越中瀬戸 調査後措置：一部を保護措置
- ・上荒又北遺跡 調査年次：平成 29 ～ 30 年度 調査対象面積：6.0ha 試掘トレンチ：56 箇所
調査面積：944m² 遺構：穴、土坑 遺物：縄文土器、弥生土器、古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、近世越中瀬戸 調査後措置：一部を保護措置
- ・相ノ木北遺跡 調査年次：平成 30 年度 調査対象面積：1.0ha 試掘トレンチ：8 箇所
調査面積：155m² 遺構：土坑 遺物：縄文土器、中世珠洲
調査後措置：一部を保護措置
- ・下荒又遺跡 調査年次：平成 30 年度 調査対象面積：1.8ha 試掘トレンチ：26 箇所
調査面積：500m² 遺構：なし 遺物：弥生土器、古代須恵器、古代土師器
調査後措置：保護措置を要しない
- ・放土ヶ瀬新遺跡 調査年次：令和元～2 年度 調査対象面積：10.2ha 試掘トレンチ：90 箇所
調査面積：1,701m² 遺構：溝 遺物：弥生土器、古代須恵器、古代土師器、中世珠洲、中世青磁、近世越中瀬戸、近世陶器 調査後措置：保護措置を要しない

保護措置を要する範囲とその取扱いについて

試掘調査の結果を受けて設定した保護措置を要する範囲は、久金新遺跡の南端部と中央西側の一帯、相ノ木北遺跡の北東側の一帯、上荒又北遺跡の西半部北側・中央・南側の一帯、上荒又南遺跡の中央東寄りの一帯である（第 25 図）。これらの範囲は遺構・遺物が決して濃密に分布しているわけではないが、限られた面積での試掘調査によって得られる情報には限りがあることを考慮し、大事をとって要保護措置範囲とした場所が多い。

これまで、調査の進捗に応じてその都度富山農林振興センターと工事の詳細設計に関わる協議を行い、十分な厚さ（原則として遺物包含層上面から 10cm）の保護層を確保するよう設計高の調整を図っている。ただし、一部用水路高との兼ね合い等でこれを若干下回らざるを得ないようなケースが生じた場合は、令和 2 年 4 月より順次工事立会を行っているところである。

計画では工事は令和 5 年度まで継続することとなっており、詳細協議がこれからという工区もまだ残されている。本書の刊行を含む調査の成果が、適切な埋蔵文化財保護を前提とした協議の一助となれば幸いである。



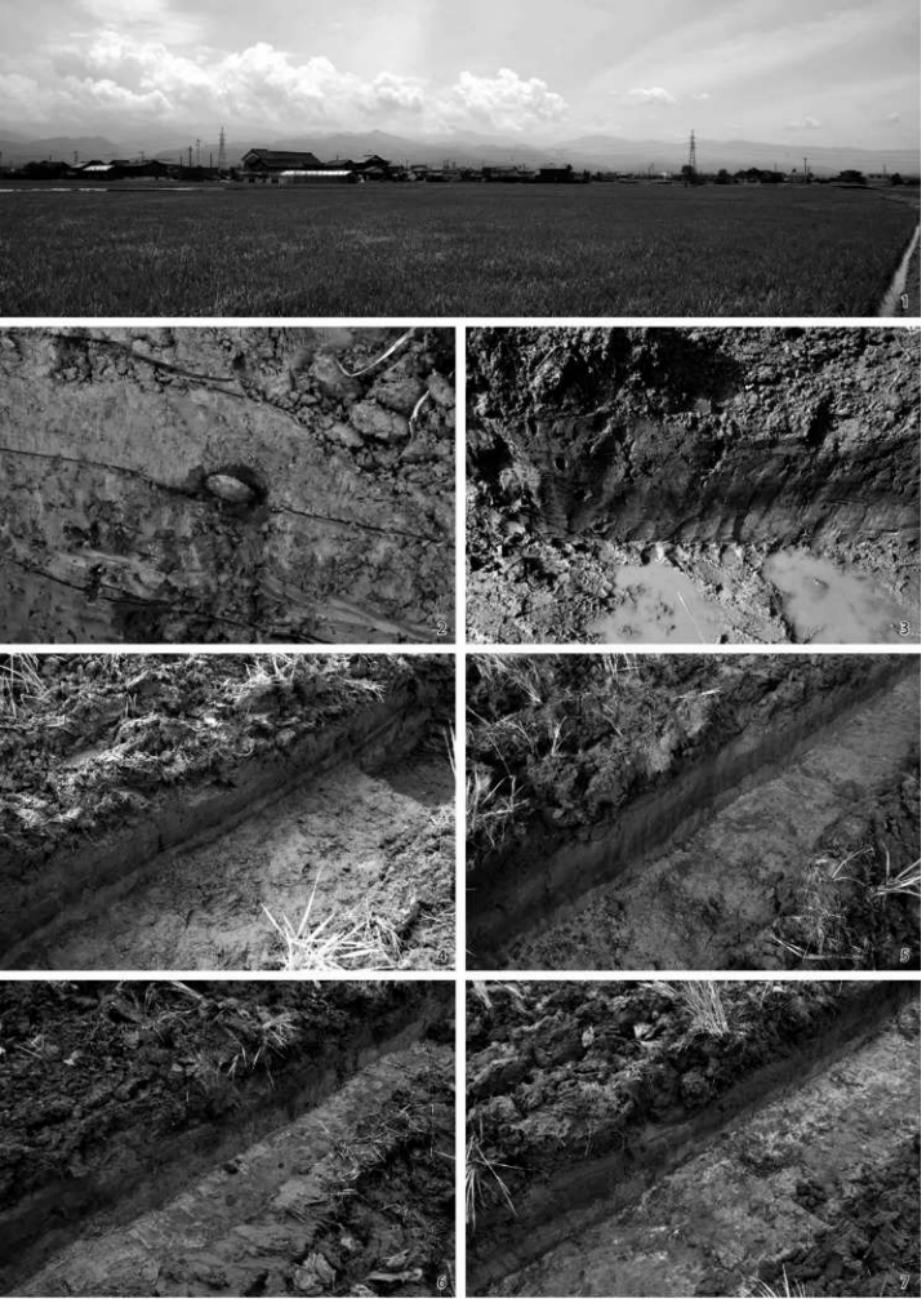
第25図 要保護措置範囲図【縮尺1/10,000】

【参考文献】

- 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』(報告編・資料編)
- 上市町 1970『上市町誌』
- 上市町 2006『新上市町誌』
- 上市町教育委員会 1981『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町遺構編—』
- 上市町教育委員会 1982『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町土器・石器編—』
- 上市町教育委員会 1984『北陸自動車道遺跡調査報告—上市町木製品・総括編—』
- 上市町教育委員会 1993『上市町埋蔵文化財分布調査報告V』
- 上市町教育委員会 1999『富山県上市町放士ヶ瀬北遺跡発掘調査概報』
- 上市町教育委員会 2010『富山県上市町稗田C遺跡発掘調査報告書—新稗田公民館新築工事に伴う緊急発掘調査—』
(財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2006『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(6)』
(財)富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2007『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(7)』
- 田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定—加賀地域にみる7世紀から11世紀中頃にかけての土器群の推移—」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』(報告編) 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 立山町教育委員会 1987『辻遺跡・浦田遺跡発掘調査概要』
- 立山町教育委員会 1990『辻遺跡—第2次発掘調査報告書—』
- 富山県埋蔵文化財センター 2020『県営農地整備事業上条中部地区埋蔵文化財試掘調査報告』
- 富山市教育委員会 1996『富山市水橋 清水堂A遺跡 清水堂C遺跡 清水堂B遺跡 清水堂D遺跡 清水堂小深田遺跡 清水堂宗平邸遺跡—県営低コスト化水田農業大画は場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(1)—』
- 富山市教育委員会 1997『富山市水橋金広遺跡 水橋田伏南遺跡 清水堂F遺跡 清水堂B遺跡—県営低コスト化水田農業大画は場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(2)—』
- 富山市教育委員会 1998『富山市水橋 清水堂E遺跡 清水堂F遺跡—県営低コスト化水田農業大画は場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(3)—』
- 富山市教育委員会 2000『富山市水橋 清水堂南遺跡—県営低コスト化水田農業大画は場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(5)—』
- 富山市教育委員会 2001『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書—県営農免農道(上条南部地区)整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)—』
- 富山市教育委員会 2002『富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書—常願寺川右岸本線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 富山市教育委員会 2009『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書—市道水橋中馬場線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 藤田富士夫 2001「東大寺領越中国莊園「大部莊」の現地比定と若干の考察」『富山史壇』第135・136号合併号、越中史壇会
- 北陸古代土器研究会 1994『北陸古代土器研究』第4号
- 北陸中世土器研究会 1997『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館



図版1 周辺航空写真（2017年撮影）



図版2 調査写真（久金新遺跡）

1. 調査対象地（北西より） 2. 3T 遺物（北西より） 3. 5T 土層（東より） 4. 8T 土層（北東より）
5. 9T 土層（南東より） 6. 12T 土層（南東より） 7. 13T 土層（北東より）



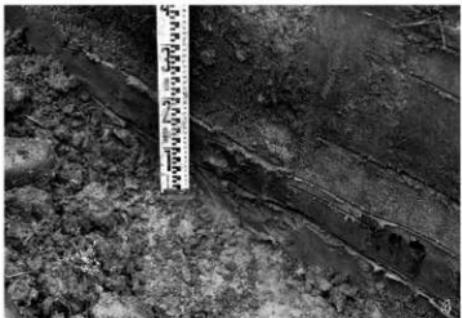
図版3 調査写真（久金新遺跡）

1. 13T穴（北より） 2. 14T土層（南東より） 3. 15T土層（北東より） 4. 16T 土層（南東より）
5. 17T土層（北東より） 6. 21T遺物（北西より） 7. 22T遺物（北より） 8. 26T遺物（北西より）



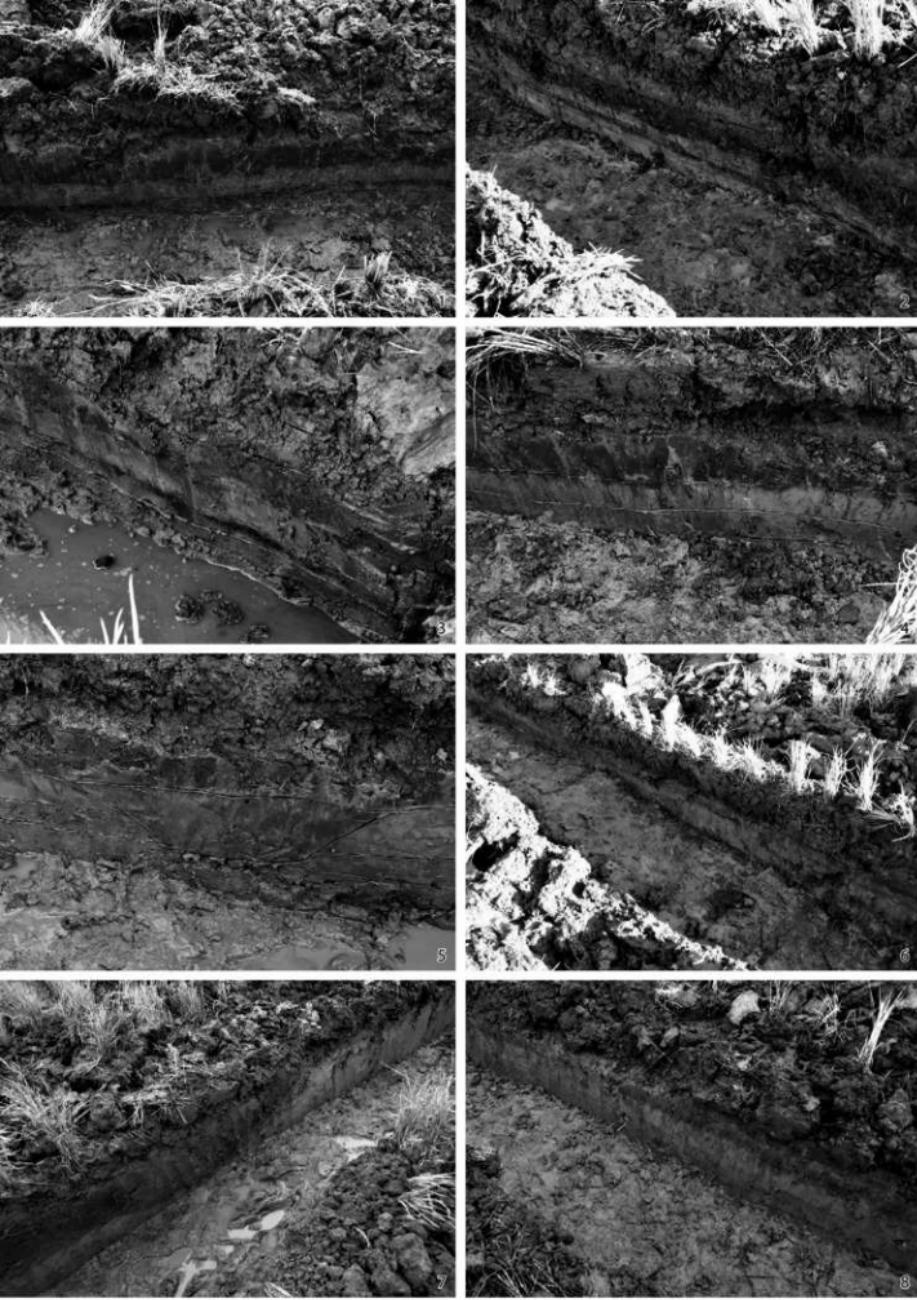
図版4 調査写真（上荒又南遺跡）

1. 調査対象地（北西より） 2. 22T 全景（北東より） 3. 22T 土層・埴砂（東より） 4. 53T 全景（南西より）
5. 53T 土層・穴（南東より） 6. 71T 全景（北東より） 7. 71T 土層（南より）



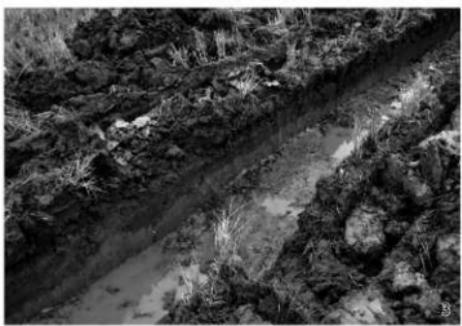
図版 5 調査写真（上荒又北遺跡）

1. 調査対象地（南西より） 2. 1T 土層（北西より） 3. 11T 土層（北西より） 4. 11T 遺物（北西より）
5. 13T 土層（東より） 6. 14T 土層（北より） 7. 16T 土層（東より）



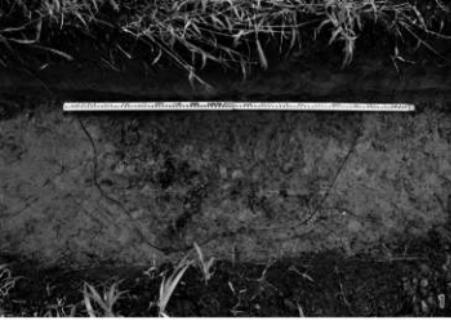
図版 6 調査写真（上荒又北遺跡）

1. 17T 土解（北より） 2. 18T 土層（北西より） 3. 20T 土層（北西より） 4. 23T 土層（北より）
5. 23T 溝（北より） 6. 31T 土層（北西より） 7. 32T 土層（南東より） 8. 33T 土層（北西より）



図版7 調査写真（上荒又北遺跡）

1. 33T 遺物（北東より） 2. 35T 土層（北東より） 3. 36T 土層（北東より） 4. 39T 土層（北西より）
5. 40T 土層（北東より） 6. 41T 土層（東より） 7. 42T 全景（北東より） 8. 42T 土層（北東より）



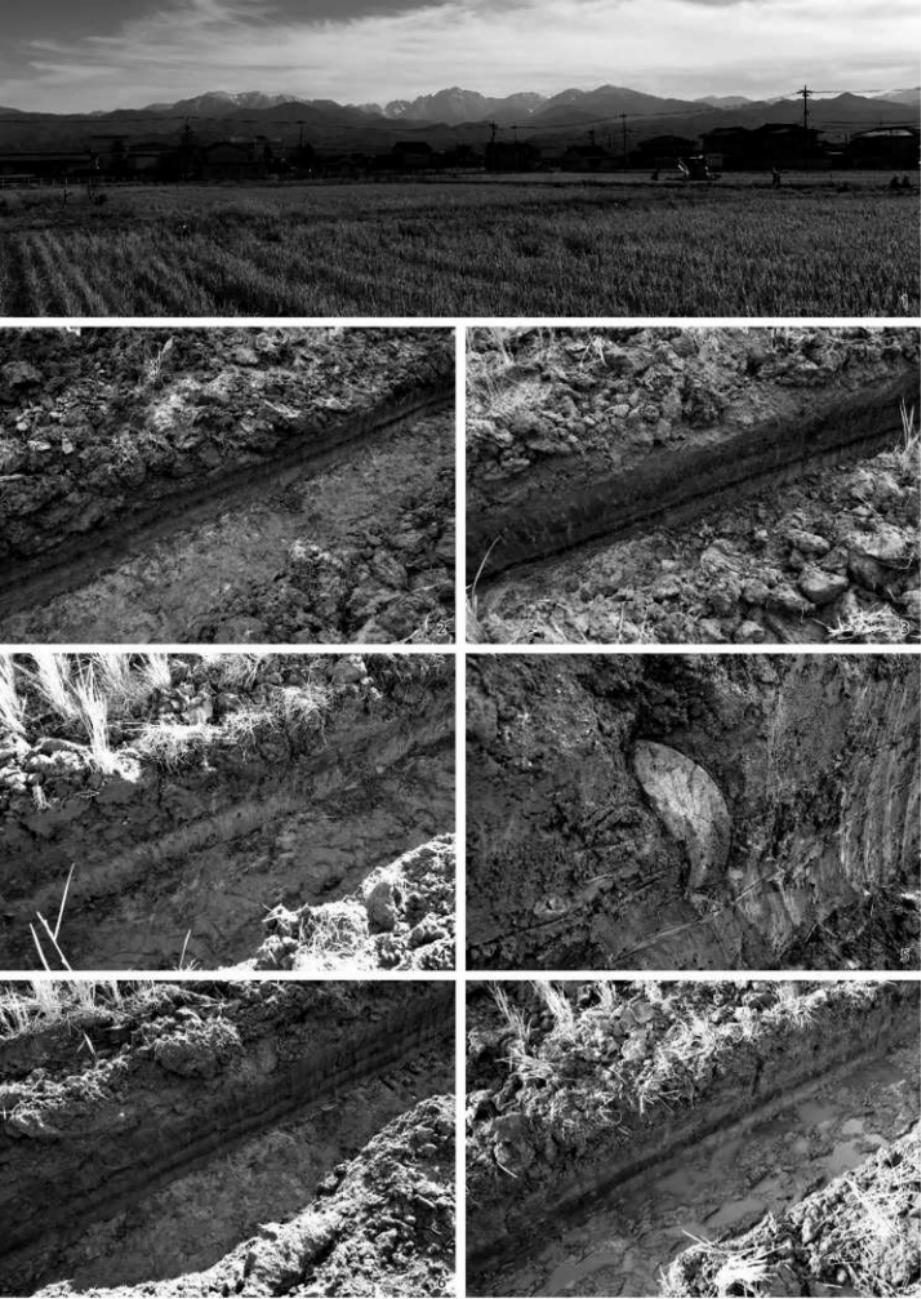
図版 8 調査写真（上荒又北遺跡）

1. 42T 土坑（北より） 2. 42T 遺物（北西より） 3. 42T 遺物（西より） 4. 44T 土層（北東より）
5. 45T 土層（南東より） 6. 49T 土層（北東より） 7. 49T 遺物（北西より） 8. 49T 遺物（北より）



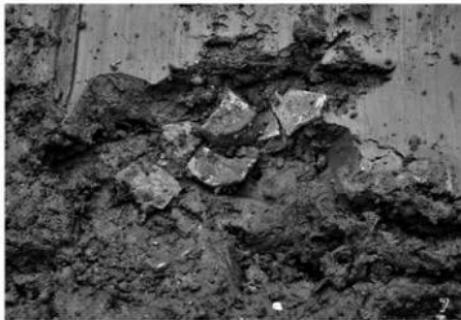
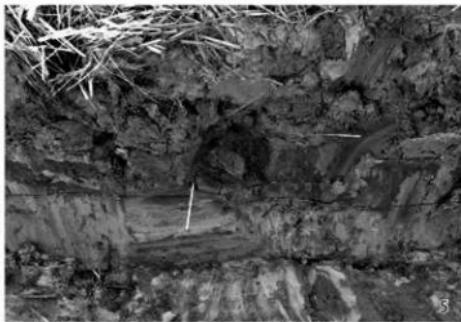
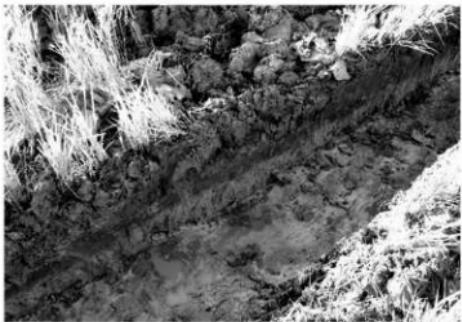
図版9 調査写真（相ノ木北遺跡）

1. 調査対象地（北西より） 2. 5T 土層（北東より） 3. 5T 遺物（南東より） 4. 5T 遺物（東より）
5. 6T 土層（北東より） 6. 6T 遺物（北より） 7. 7T 土層・土坑（北より）



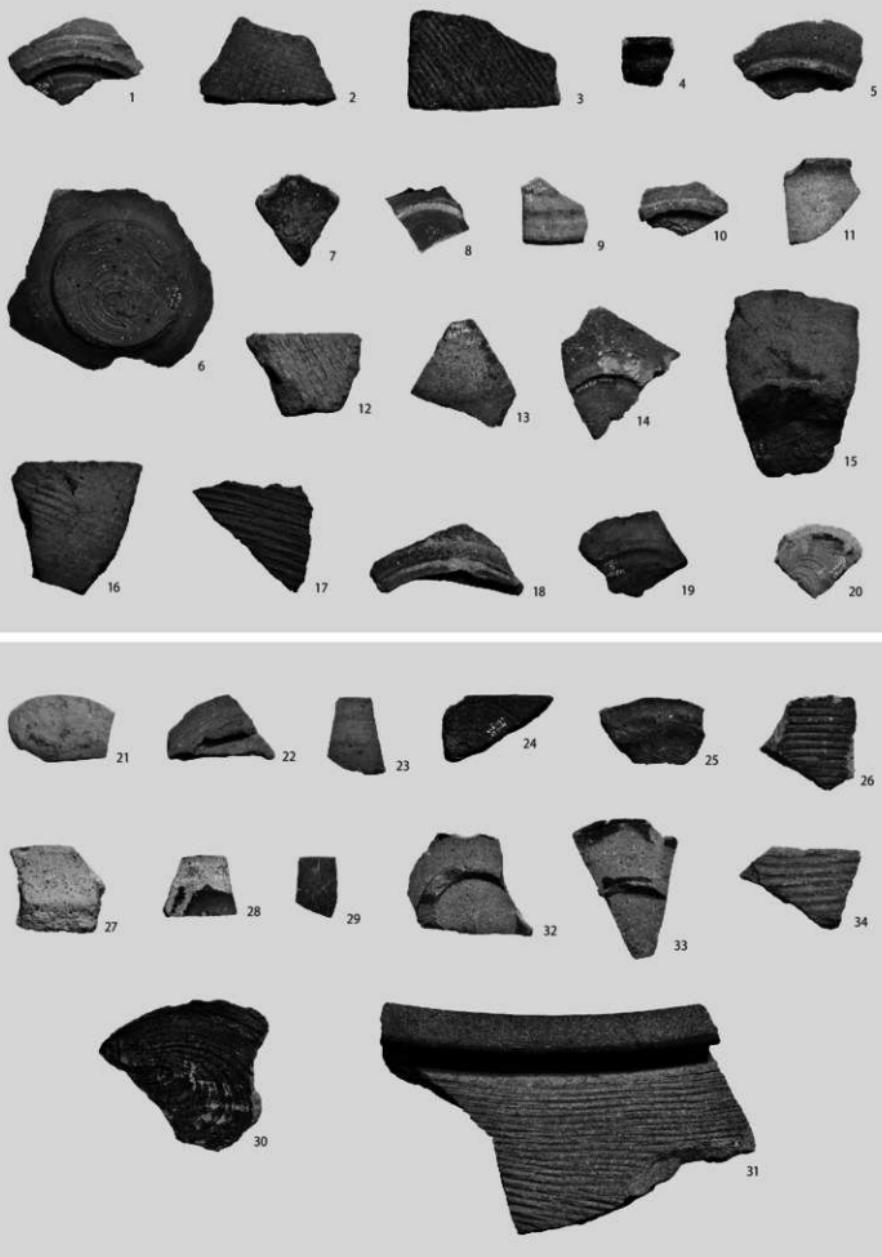
図版 10 調査写真（下荒又遺跡）

1. 調査対象地（北西より） 2. 4T 土層（南東より） 3. 6T 土層（北東より） 4. 16T 土層（北東より）
5. 16T 遺物土層（北東より） 6. 12T 土層（北東より） 7. 26T 土層（南東より）



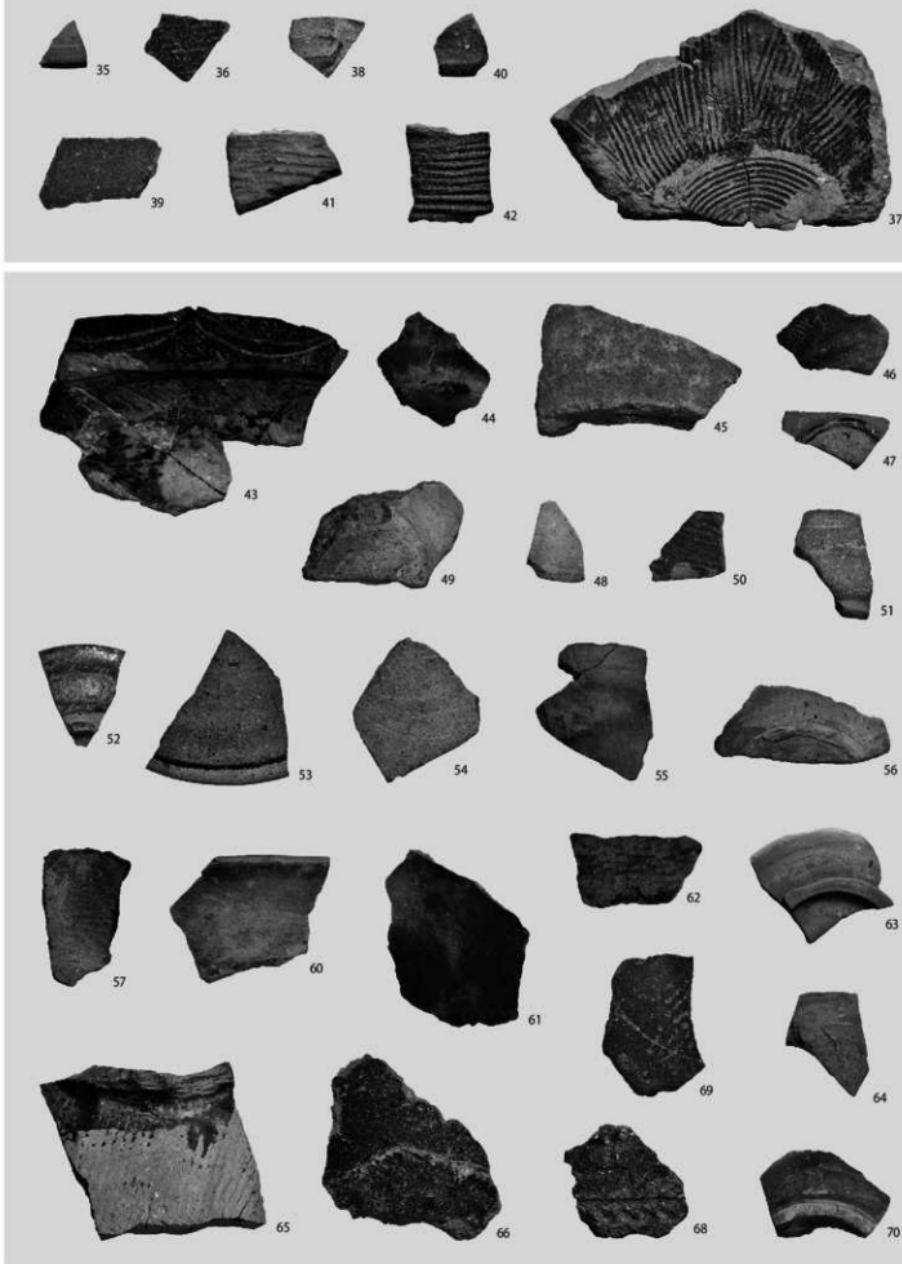
図版 11 調査写真（放土ヶ瀬新遺跡）

1. 調査対象地（南西より） 2. 23T 遺物（北より） 3. 73T 土層（北より） 4. 86T 土層（南東より）
5. 86T 遺物（東より） 6. 90T 土層（北東より） 7. 90T 遺物（東より）



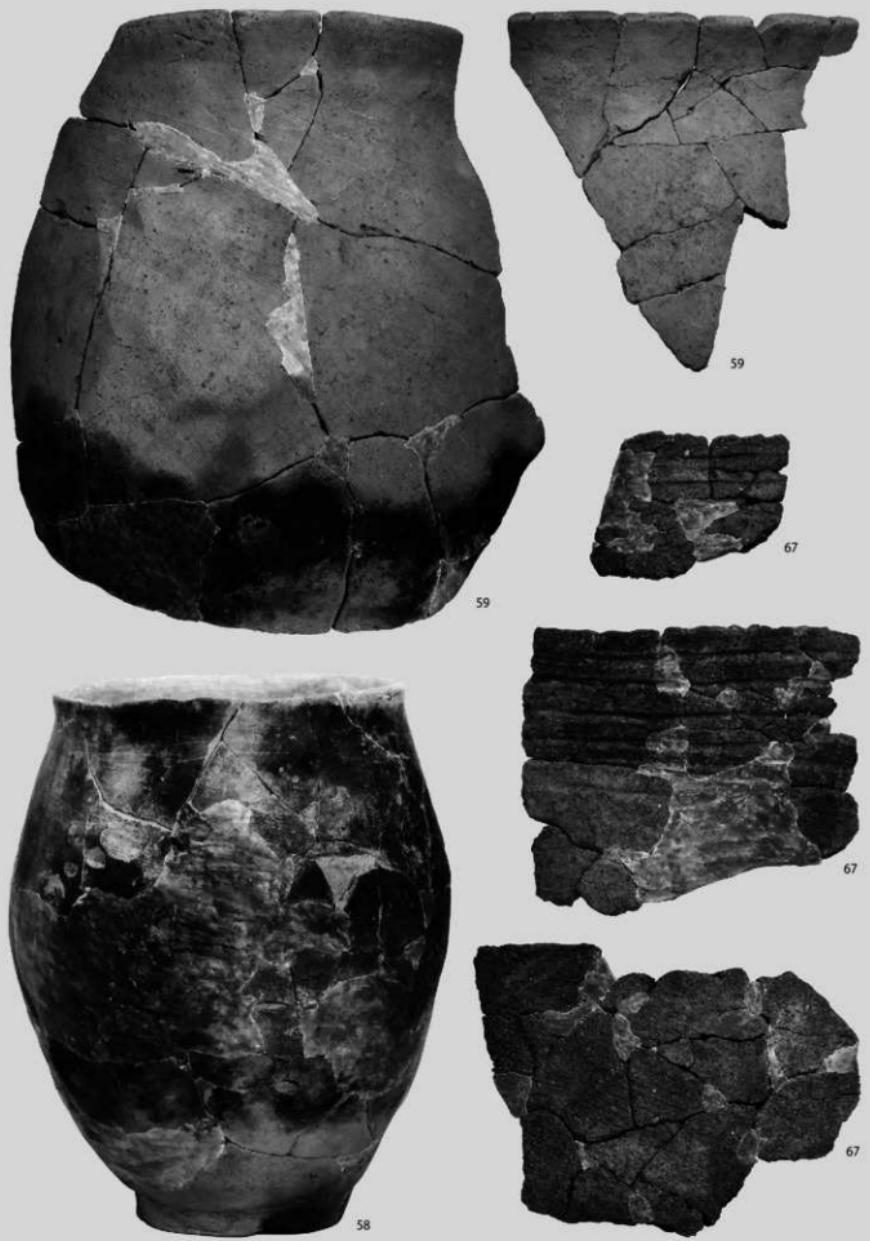
図版 12 遺物写真 (1) [縮尺 1/2]

1 - 20. 分布調査採集遺物 21 - 34. 久金新遺跡出土遺物

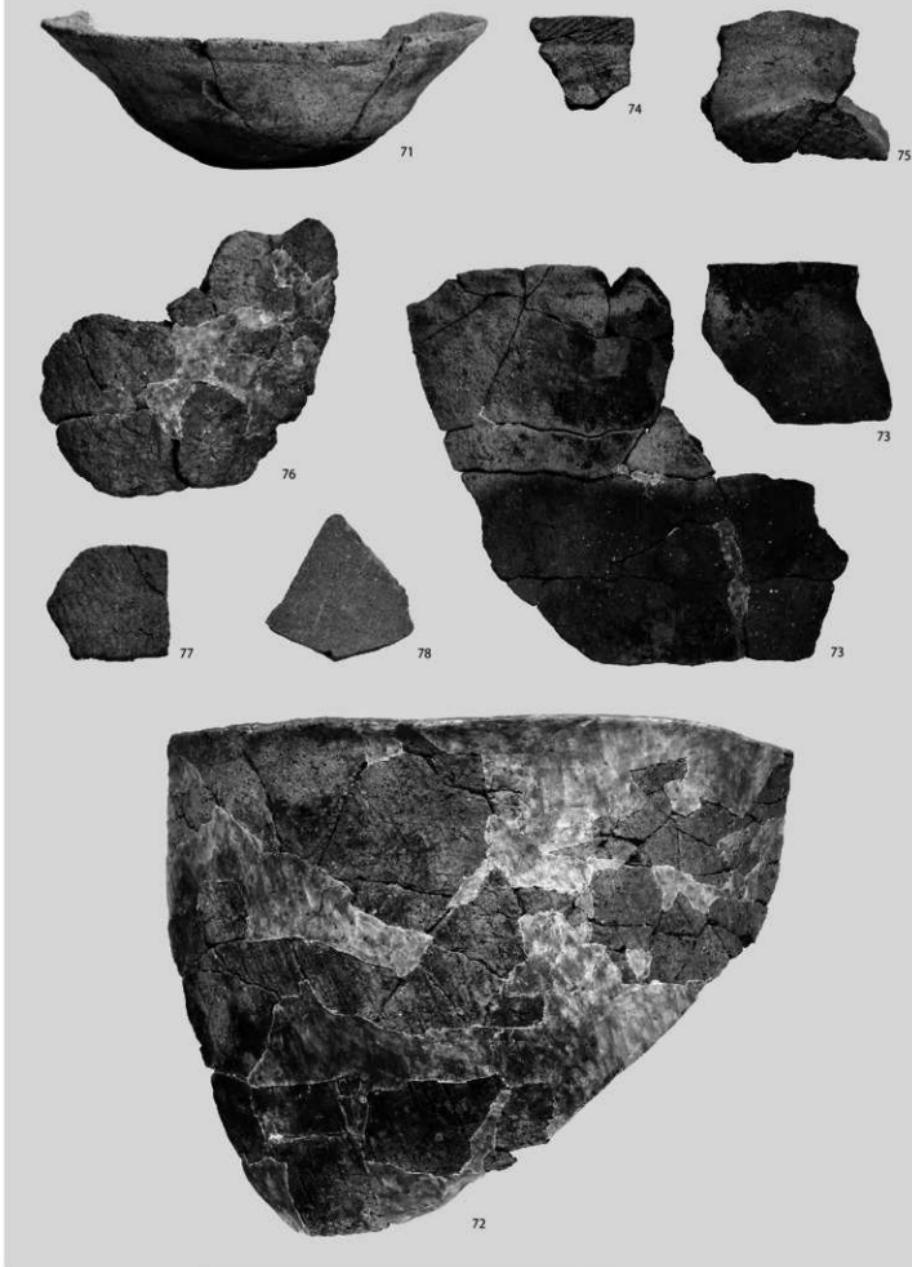


图版 13 遗物写真 (2) [縮尺 1/2]

35—42, 上荒又南遺跡出土遺物 43—57·60—66·68—70, 上荒又北遺跡出土遺物

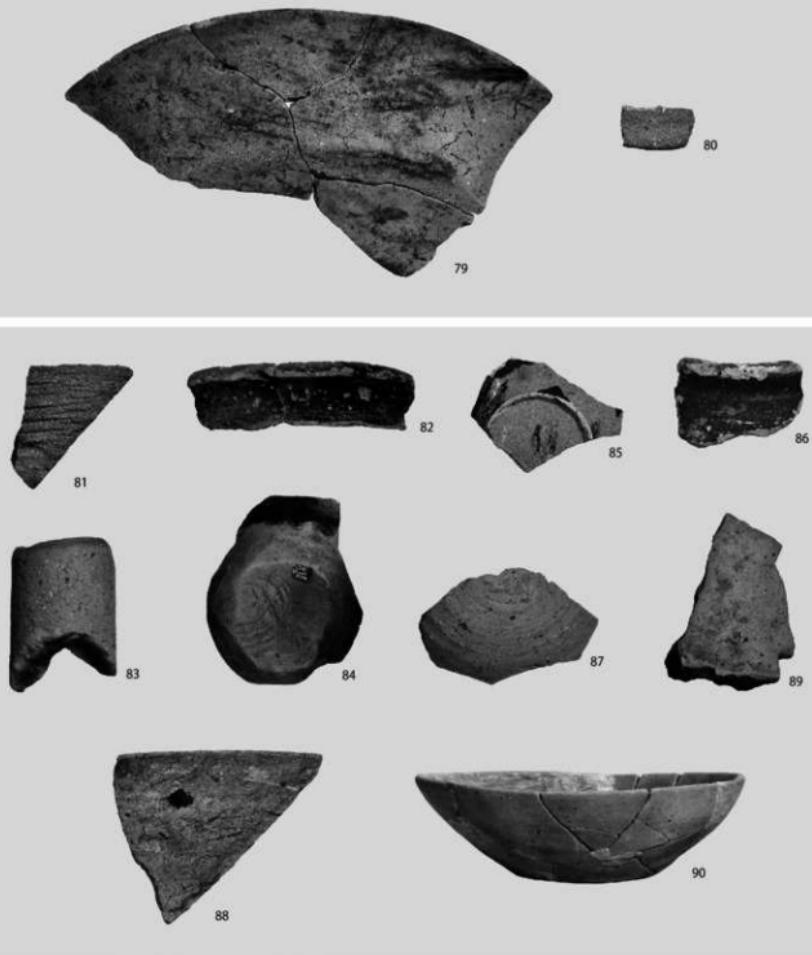


図版 14 遺物写真 (3) [縮尺 1/2]
58・59・67. 上荒又北道路出土遺物



图版 15 遗物写真 (4) [縮尺 1/2]

71—78. 相ノ木北遺跡出土遺物



図版 16 遺物写真 (5) [縮尺 1/2]

79・80. 下荒又遺跡出土遺物 81—90. 放土ヶ瀬新遺跡出土遺物

報 告 書 抄 錄

富山県上市町
町内遺跡試掘調査報告書
—県営農地整備事業（相ノ木中部北・南地区）に伴う調査—

編集・発行：上市町教育委員会

〒 930-0393

富山県中新川郡上市町法音寺1番地

Tel : 076-472-1111 / Fax : 076-473-2085

発 行 日：2021（令和3）年3月31日

印 刷：第一共同印刷株式会社



環境保護のため、環境に優しい大豆油インキを使用しています。

